

KGA

'87夏季号
昭和62年7月1日発行



目次

良き伝統を継承しつつ.....	1
程ヶ谷カントリー倶楽部理事長 森村 大華生	
委員長インタビュー(第2回).....	4
競技委員長 中井 文治	
コラム・芝草物語.....	6
『わが友』ジュニア・ゴルファーの近況.....	7
ジュニア委員会副委員長 大鷲 俊朗	
昭和62年度関東アマチュアゴルフ選手権競技.....	10
昭和62年度関東女子ゴルフ選手権競技.....	13
昭和62年度関東倶楽部対抗予選競技.....	18
ゴルフQ & A.....	26
実施規定.....	28
理事会・委員会.....	31
月例競技成績表(昭和62年3月・4月)お知らせ.....	35

表紙Photo 東名カントリークラブNo.9

 関東ゴルフ連盟

理事長インタビュー

良き伝統を継承しつつ……

程ヶ谷カントリー倶楽部理事長 森村 大華生氏

聞き手・KGA広報委員 杉山 通敏



——いきなり具体的な質問で恐縮ですが、たとえば私のようなものが「程ヶ谷」に入会させていただこうとしたら、どういう手続きをすればよろしいでしょうか。

「現在は新しい会員を募集してませんので無理ですけど、従来のやり方ですと、まず個人の履歴書とゴルフのほうの履歴書、これを出していただくことになりますね。応募者リストを15人の理事と3人の監事が見て、投票するわけです。1人20票の投票権がありましてね。その結果を、今度は選考委員会にかけて、一日で即決っちゃう。だいたい得票数の多い方が入会されるケースが多いです。ま、悪いインフォーメーションが入らないかぎりね。およよそ10倍ぐらいの『競争率』になりますので、選考委員会を開いたら、その日のうちに決めちゃうようにします。そうしませんと、あの方よりこっちの方のほうがいいとか、いろいろと問題が起きて、收拾がつかなくなりますからね」

——現在の会員数は何名ですか。

「750名です。会員の『ワク』は950名ありますが、年々、物故者が多くなりまして、200名ほどの空きはあるにはあるんですけど、それをすぐに埋めるとなるといろいろ問題があるわけです。新しく入ってられる方は、当り前のことですが、アクティブですよね。一度に200名ものアクティブメンバーが増えますと、いままであった『ゆとり』のようなものが、さまざまな面でそこなわれる可能性があるわけです。ま、時期をみて、おいおい新しい方をお迎えしようとは思ってますけどね。4年前に500万円の入会金で60名募集したのが最後です。なにせ、私自身、今年2月の会員総会で理事長になったばかりの『新米』ですから、諸先輩のご意見を拝聴しながらやっていると思ってます。64年に及ぶ『良き』伝統をこわさないように」

——その『良き』というのは、具体的にはどういうところにあると思ってらっしゃいますか

「程ヶ谷は格式が高いとか、『うるさい』とか、固苦しいとか、いろいろ言われてますけど、メンバー同士ではそういうことは感じない。貴賓室があるわけでもない。理事長室があるわけでもない。理事や委員だからといって特権があるわけでもなく、むしろ世話役みたいなものです。ただ、われわれとしては慣れていることでも、ビジターの方には慣れてないものがあると思うんですね」

——食堂では上衣着用のこと、というような

「ははア(笑)、そのことですか。上衣着用といっても今はオールシーズンではないですよ。4月から10月までは上衣なしもいいことになっています(昼食時)。汗かいてるときには我慢してまで着ることはないですもの。ただ諸先輩が守ってきた伝統、ゴルフ場へやって来るときの『気分』ですね。朝、出掛けるときにジャンパーをひっかけるのと、ブレザーにしろ『上衣』を着るのとじゃ、張りがちがうんじやないでしょうかね。礼儀みたいなものが。プレーの

理事長インタビュー

作法なんかにも影響してくると思う。いろいろなことに気をつけようとする、上衣を着れば、ジャンバーのときよりも

——“けじめ”みたいなものですか。“ワク”をとっぱらちゃいますと、クラブライフがなくすしになるようなところがあるんじゃないですね。

「諸先輩が守ってきたことで良いところは守っていくのがわれわれの“務め”ですから」

——崩すのは簡単ですが、守り通すのは容易じゃないでしょ

う。『メンバーの方はそれが習慣になってますので、別に問題はないと思いますが、ビジターの方は困苦しいとか、格式ばつてるとか思うかもしれませんね。でも、それが礼儀だと思っていただけば、プレーのほうにもいい影響が出てくると思いますけど、どうでしょうかね。メンバーの“良き”場所。そこへお連れしてビジターの方もともに楽しんでいただく。みんなお仲間ですよ。誰も上ではないし、下でもない。ま、お年寄りには敬意を払いますけどね』

——メンバーとビジターの割合はどのくらいですか。

「3分の2がビジターじゃないですか。正確なところは分かりませんけどね。年間来場者は3万5000人ぐらい。日曜日はメンバーだけですが、アクティブな方は会員の半分ぐらいしかいらっしゃいませんで、従業員が全員、名前を憶えていて、食堂でもサインしなくて済みます」



▲社長室に飾ってあったクラシック・クラブを杉山委員に説明する森村氏

——それは羨ましい限りですね。

「メンバーも古ければ、従業員も古いであります。程ヶ谷ファミリーみたいなものがあってコース売店の女子従業員とコック長の誰それと夫婦だとか、兄弟、親子といったつながりもあったり、家族ぐるみのサービスを受けている感じがあります。メンバーにとってありがたいことですが、同じようなサービスをビジターの方にもしてさしあげるように気を配っていきたいと思います」



——メンバーの平均年齢は何歳になりますか

「たしか72歳です。90歳を越えて、まだ元気にプレーなさってる方もいらっしゃる。4年前の募集で若い方もかなり入ってきましたけど、それでも50歳以下の人には数えるほどしかいません。実は若くて、上手な人を入れようじゃないかという意見もあるんです。関東俱楽部対抗戦をやっても程ヶ谷はいつも最下位(笑)、ぱちぱち、汚名を挽回しようということです……」

——クラブ運営費とかコース維持費といったものをビジターフィに依存せざるを得ないと思うんですが、メンバーの負担とのかね合いはいかがなものですか。『会員の年会費は6万円ですが、受益者負担を原則にしています。何年か前に雪の被害を受けたことがありますね。あのときは特別負担金という名目で、メンバーからもビジターからも2000円いただいた。去年はそれを3000円にしたわけですが、楽しめた方にはそれだけの負担をしていただこうと思いまし



て。社団法人ですから儲けを出す必要はありませんから、収支トントンでいい。ただお年寄りが多いのでドッグレッグのホールやあまりアップダウントーンのはげしいホールなどは改造したわけです。生命の危険にかかわってきますからね」

——社団法人の行き方として“公益に寄与する”という問題があると思いますけど、その点はどう処していらっしゃいますか。

「月曜日が定休日になってますので、近隣の幼稚園児に開放したり、神奈川県の試合に使ってもらったり、それから20名にかぎって、各國の大便を名誉会員としてお迎えしたり、出来るだけのことはやってるつもりです。コントロールを受けるのは県の教育委員会だと思いますが、いまのところ、妥当な運営をしていると思っています」

——ところで、理事長は森村市佐衛門(程ヶ谷CC発起人、日本ゴルフ協会初代会長)とはどういうご関係ですか。

「親父のイトコですから、ま、伯父さんと言ってよいでしょう。時代が流れていますので、ゴルフをご一緒にさせていただいたこともありますし、コワイ伯父さんという感じで、逃げまわってましたよ(笑)。私が入会したのは昭和32年でしたが、当時はまだ30代(大正10年生)の半ばでしたから、明治のオジさんたちに“可愛い”がってもらいました。よくしてやろうということですね。それはいまだにつづいてまして、この間もむかし、俱楽部チャンピオンになったこともある鈴木孝さんとマッチプレーで当った

んですが、改めて教えていただくことがたくさんありましたね。OKの出し方とか、作戦のたて方とか、さまざまなマネージメントとか、プレー態度とか。まだまだ私は未熟者だと思いましたね」

——ティに立てるだけで、あるいはフェアウェイを歩く姿を見ただけで、これぞゴルファー、という感じの方が程ヶ谷にはたくさんいらっしゃるでしょうね。

「ええ。そういう良いものを若い人たちに伝えたいと思ってます。この間の募集で松岡敬君のような若くて、上手な人が入って来ましたから楽しみです。私のゴルフですか、どうもこっち(現コース)に移ってからは、相性が悪いせいか、パッとしませんね。ハンドicapも15、向う(旧コース)では9までいって、理事長杯やら会長杯やらいろいろ勝たせていただいたんですけど、こっちではマンスリーすら勝てない。ま、月に6回程度のサンデーゴルフですから、無理もないでしょうね」

——旧コースのほうを懐かしむ方も多いのではないかですか。

「なかにはね。しかし、クラブライフそのものは変わりありませんし、コースにしても、移ってもう20年になりますから、皆さんそれなりに楽しんでおられますよ。コースはあっても伝統は変りませんね。私のような若造が理事長なんて、恐れ多いことですが、良き伝統だけは守っていきたいと思っています」



▲プレー中の森村氏

委員長インタビュー

第2回

競技委員長 中井 文治

聞き手・KGA広報委員 宮元 昭雄

アメリカに次いでゴルフ王国といわれる日本。だが現実的にはゴルファー全体のマナーとルールの認識や自覚は極めて低い。トーナメントの放映によってゴルフ自体が完全に国民的大衆スポーツとして浸透したともいえるが、それだけにアマ・プロを問わずプレーに対する厳しさも一層強く要求されていることは否めない。そこで今回はオープン・トーナメントなど数々の公式競技を運営統括する競技委員会にスポットを当て、中井委員長にいろいろと聞いてみた。



——委員長はJGAの国際委員会の委員長をも兼務されており、海外での競技も数多く見ておられると思いますが、外国における競技会を通じてその運営面とか競技委員会の本質などについて日本との違いやお気づきの点をお伺いしたい。

KGAにしてもJGAもアマチュアの団体であり、その主催する競技はあくまでアマチュアを主体に考えたものであり、私ども競技委員会の在り方もアマチュア・スポーツの神髄はこういうものだ、ということが大原則になっている。そのあたりがプロのトーナメントと考え方というか運営面において違います。われわれはあくまでボランティアとして働いているのであって、アマチュアリズムというものの本質をプレーヤーのみならず委員にもその考え方をもって運営してほしいと思う。

何度か海外のオープン・トーナメントを観てきた

が、外国に比べて日本のトーナメントはプレーヤーに対して過保護すぎると思う。とくにアマチュアの試合などはその傾向が非常に強いように感じる。

競技委員会は日本のゴルフを発展させるために立派な大会を運営するのだという目的があり、そこにボランティアの精神が存在する。プレーヤーたちは委員がアレコレ面倒を見るのが当たり前だ、という考え方をもっている人もいるが、これは全く大きな間違いだと思います。

——つまり甘えがあるということですね。

アマのプレーヤーは特に自覚が欲しい。オープントーナメントに選ばれた選手は、ただ選ばれたのだからプレーをすればよい、という考えでは困る。自分がプロにでもなっているような錯覚に陥って、言動がアマの本質を忘れがちだ。コースが少しでも悪ければ「なんだ、こんなコースで…」などと軽々し

く批判を口にする。ゴルフ以前にマナーということから勉強して貰わねばならない人が多い。

——マナーもさることながら、プロ・アマを問わずルールは厳しく自主的に遵守するという心構えが欠けているやに思えますね。昔はいかなる不運でも甘んじて受けることが美德といわれましたか昨今のトーナメントでは救済を自から求める傾向が強いように思います。特にルールをめぐってトラブルが発生しているのも、プレーヤー自身がもっとルールに精通しておれば問題は起きないことなんんですけど、こうした質の問題について委員会として今後どのように対応されるのでしょうか？

競技委員会としてもこうした問題は積極的に対応するようにしております。特にこれからはJGAのルール委員会などと協議しながらルール・マナーの指導を徹底してやっていくという考えです。

とくにジュニア育成委員会や月例委員会などとも話し合って具体的な指導普及につとめて参ります。ルール委員会のアドバイスを積極的に受け入れると同時に、より正しくより公平にルールがつくられてゆく、それを受けて連盟としても対象のクラブやプレーヤーに対して講習会などを開いて指導してゆくことが必要だと思っています。

——当然のことながら競技委員自体の質の向上という問題も考える時期だと思いますが。とくに最近はテレビ放映などによって一般ゴルファーはより身近にトラブルなどを見ることができます。そのためにトラブルの処置をめぐって疑義を投げかけてくるケースがこれまで随分ありました。改めて競技委員の権限とか責任という問題を再確認すると同時に総じて質の向上は必要欠くことの出来ないことだと思いますが。

質の向上ということは当然その必要性を痛感しております。これは大変せんえつなことですが、大会運営を完璧に進めるためにも競技委員会の立場はそれだけ責任が大きいということですから。

そこで今年は委員会の在り方というかその運営の仕方を変更しました。今までKGAは6班に編成して競技会を見てきましたが、今年は県別を大きく分割して3班に編成しなおしました。班別に委員長を設け、これらの人たちが自主的に運営していく体制を

とりました。でなければ広範囲なトーナメントは面倒みきれないと思います。

——コースの下見から大会当日におけるご苦労は本当に大変なことだと思います。しかし海外のオープン・トーナメントなどと比較すると日本の場合はあまりにも委員が神経過敏になりすぎているやに見えますけど。

私の考えは競技委員は少なくとも任命されたら誰でも委員長としてつとまるだけの知識を持たなければならぬと思う。だからそこまで厳しく勉強をして貰い、ルールに精通して欲しいというのが今年の方針であり、是非これを実行してまいりたいと思っています。これまで本部に誰か責任者がいるということで現場サイドの問題も逐次本部に通報してその裁量待ちというケースが多かったが、今後は自分で判断し、委員として指示行為がどれ、責任を全う出来るように育てて欲しいという考え方もあるわけです。委員の裁定は最終ですから。

USGAなどは競技委員会のメンバーも全国でも僅かな員数でやっている。これらの人たちは誰でも委員長として統括できるように精通している人ばかりです。トーナメントの開催コースからボランティアとして競技委員の人が加わっても、この人たちもまた立派にこなしている。日本は『頭デッカチ』だから。将来は日本も英国や米国のように育っていくことを望ましいことだと思います。

——ルールの解釈をめぐってJGAとPGAとの間に食い違いがあるというケースは？

JGAはあくまでゼネラル・ルールに従って対応する事を前提としておりますが、PGAでは競技運営の面で一部救済処置などがJGAと異なる解釈をとっております。これは発想の次元が異なっているという見方なのでしょうけどJGAとしてもこの問題については、再びPGAに改正を申し入れており、すみやかにルールの統一を計るべく努力致しております。

——ゴルフがアウト・ドア・スポーツの花形といわれ今や大衆スポーツとして根深く普及されておりますが、やはり一般ゴルファーにとってトーナメントにおけるプロの技量やルール解釈などは身近な教材ともなるわけですから、その点から考えてもプロ・アマを問わずルールは厳然と統一されたものでなくて

委員長インタビュー

はならないし、とかく累卵の恐れがあるとまでいわれる昨今のルールの勉強不足がもたらすトラブルなどは今後は絶対にさけて貰いたいものですね。日本ゴルフ界も体協加盟復帰が予定されておりますが委員長の個人的考え方をお聞かせ願えませんか。

体協加盟という問題で競技委員会としてはまだ何も具体的には考えてはおりませんが、他の加盟団体に比べても、ゴルフ協会は組織的にも大きな団体であり、その加盟自体ゴルフ界にとって大変有意義なことだと思います。これまでクラブ単位で運営され

ていたKGA・JGAのシステムが、これからは大衆化されることによって、個人にも門戸を開くことになり、クラブに所属していないプレイヤーでも、トーナメントに参加出来るチャンスが生れるわけで、今迄とは大きな違いでしょうね。KGA・JGAとしても、これを機会に、ゴルフ本来の精神を再確認し、それを一般ゴルファーに正しく指導していくことが、今後の使命であると思います。

——どうもありがとうございました。

コラム・芝草物語②

“ベン・コーライ” という芝生への夢

観光日本株式会社
安達慎三

良く刈り込んだペントグリーンでのパットはこの上もなく楽しいものである。また適当に刈り込まれた高麗芝のフェアウェイで打つボールの快感にも捨て難いものがある。

このペントと高麗芝を混ぜ合わせた様な芝生は出来ないものであろうか——というのが前関東連盟木村グリーン委員長の話でもあった。しかしこの二つの芝生に就いてはその各々の生育ゾーンが著しく異なるので、今のところでは仲々難しい問題である。というのはペントは仙台以北でしか育たないとされており、高麗芝は標氏10度以下では生長が止まるという相い反した性質を持っているからである。さらにいうならペントはC₃植物であり高麗芝はC₄植物であって、その植生が根本的に異なっているので、これらを交配させる事は難しい。これを例えていえば男と女の差とでも表現出来ようか？ 男と女を混せて中性の人間を作る事が不可能の様に……。

ウォッカーカップの行われるパインバレーコースには約一万坪の芝生のナセリーがあり、その中に千坪位の高麗芝がある。この芝生を指して“世界にこれ以上のクオリティーを持つ芝生はない”と言ったスティンガー（註1）の言葉が今でも忘れられない。

関西にはペントのワングリーンで営業を続けているコースもある。大甲賀C.C.などは開場以

来十二年間それで通している。また最近出来たパインレークG.C.もペントのワングリーンである。しかし高麗芝にペントを入れると、高麗芝がどんどんと負けて行くので、これらを共存させるという処までは行っていない。何とかして高麗芝をエンバーグリーンの芝生にする事は出来ないものであろうか？ そうする事が出来れば一步ペントに近づくのであるが……。

人間が月へ行くなどという事は、われわれにとって夢のまた夢でしかなかった。しかし幼い頃より月旅行を考えていたW・ブラウン（註2）は遂にそれをなし遂げた。それがスペースシャトルであった。

現在の科学ではバイオテクノロジーなる分野が開発され、その技術も日進月歩の歩みを見せており、いろいろと新しい分野を開拓しているのが現状である。だとすればこの技術によって“ベン・コーライ”という新品種の開発も期待出来るのではなかろうか？ しかしそこには前述のC₃植物は、C₄植物の植生の境を乗り越えねばならないという難問が控えている。

（註1）パインバレーG.C.のグリーンキーパーで、現在は隠退して、長男がその職にある。

（註2）ドイツ人。第二次大戦中V₂ロケットを開発し英國を震撼させた。戦後はアメリカに帰化し69年のアポロ11号の人類による月面着陸の成功に多大な貢献をした。

ジュニア教室

“わが友”ジュニア・ゴルファーの近況

ジュニア委員会副委員長 大鷲 俊朗



夜の講習会 ラウンドの疲れも見せず熱心に勉強

関東ゴルフ連盟ジュニア委員会は、現在、大別すると二つの活動を行なっています。一つは毎年約10%も参加者が増えている関東ジュニア選手権競技の運営、管理である。もう一つの活動はジュニア教室の開催である。

今回は後者について記したいと思います。

願いは指導的ゴルファーの育成

技術、スコアの向上はもちろんのこと、エチケット・マナーをしっかりと修得させ、人格、人間性の向上、そして将来、指導的ゴルファーの養成を目的とするジュニア教室は、小学、中学、高校生の男女を対象に行なっておりますが、子供達の学校が休みの期間に行なわれますので日程的に難しい事が多々あります。

ここ数年、春休みには2泊3日の合宿を行ない、夏休みには初心者教室を含めての1日教室を3回（今年は、東京ゴルフ倶楽部、桜ヶ丘カントリークラブ、

ノーザン錦ヶ原ゴルフ場の協力を得ております）行なっております。

今年の春休み合宿は、烏山城カントリークラブにお世話になり4月1、2、3日行なわれました。2泊3日という合宿生活には、正しい共同生活を体験するという大きな目的もあります。従って生活面での指導も厳しく行ないます。最近の子供には、朝の集合時間が守れない、お世話になる人に対しても挨拶が出来ない、お風呂に入るマナー等々、団体生活の基本ルールを知らない子供が多く目立ちます。しかし、注意することによって、ほとんどの子供は次回は正しく励行します。これが指導している私達の喜びであり、楽しみなのです。

定員100名にもかかわらず、倍近い申込者がありましたが、諸条件（宿泊施設、練習場の広さ、指導員数等々）を考慮し、100名（小・中・高校の男子91名、女子9名）を先着順に参加させねばなりませんでした。

ジュニア教室



▲ 斎藤委員長のユーモアあふれる講義

▼ あどけない目つきにも闘志が



▲ 身の丈もあるバッグも重くない

▼ プロのコーチなんてはじめて



規律正しい合宿生活

4月1日午前11時30分ゴルフ場集合、約90名の電車利用者は単身で参加しました。朝6時起床、夜10時就寝まで、スケジュールはいっぱいです。朝・夕の日本プロゴルフ協会派遣のプロ講師による班別のレッスン。ラウンドレッスンは、プラスハンディを含めた全員が3以下のKGAトップアマチュアである17名のジュニア委員と5名のプロ、10名の学連指導員の応援を得て、かなり内容が濃く、そして厳しいレッスン(初日0.5R、2日目1.5R、3日目は試合形式による1R)を行ないます。生徒の中には、パープレーで回る子供も数人おります。

夜7時より9時までは、ルール・エチケット講習会及びテスト等を行ないます。斎藤ジュニア委員長の面白いゴルフの話や小生のルールのテストやその解説等で2時間が短く感じられ、そして、年々、熱心な参加者が増えて、居眠りする者が皆無になり、

私達もやりがいがあります。

愛情ある説得が必要

古い話になりますが³、昭和53年の春、某新聞社主催の小学・中学生を対象としたゴルフ教室に、JGAの派遣講師として浜松のゴルフ場で講師を務めたことがありました。その時の私なりの調査によると、例えば、主催者側が東京駅より引率同伴したにもかかわらず、全参加者77名中70名の多くが親同伴で参加しました。また使用しているクラブはハーフセットの使用者は一人もおらず、ほとんどがフルセットを所持しておりました。驚いた事は、宿泊するホテルの廊下での子供達でした。ドライバーの素振りやパーの練習を一生懸命やっているのです。おまけに真赤なスラックスをはいている者數名おりました。しかし、翌年は初参加者を除き全員が1人で参加しました。³やれば出来る。これが子供の素晴らしさだと私は信じております。子供は最初は何も知ら



▲ ウン、ナイスショット

▼ どうだこのスイング



▲ やったゼビンそばだ

▼ 2オンねらってフルスイング



ない、何か間違った事をすれば、これは親なり、大人が教えた事であろう、これを直すのは、正しく理解させる事であり、少なくとも愛情ある説得である、怒りであってはいけない。

10年前に比べ、確かにジュニアのゴルフは向上している。技量にしても、参加者の心構え、服装、言葉使い等で良くなっていると思います。

最近のジュニアゴルフは、レジャーの要素からスポーツとしてのゴルフに変ってきてます。しかし、練習場では素晴らしい球を打つが、ラウンドではそれが發揮できない。明らかにラウンド不足である。大半の子供がよく月一回ぐらいでしょう。この悩みを解決し環境を作つてあげることが急務であり、我々先輩ゴルファーの使命ではないでしょうか。

友人の誇らしげな顔

2年前、シアトルのあるゴルフ場を訪れた際、私の友人の会員いわく「毎週火曜日と木曜日の午後は、

レディスとジュニアだんだん。彼らはこの日に限り2ドルでプレー⁴が出来るんだ。そして、我々シアトルのゴルフ場のメンバーは年間10ドルの寄附金を出しているよ。これはジュニアゴルファーの奨学金に使われているんだ」という彼の誇らしげな顔を今でも思い出します。

しかし、この友人に今日会うことができたら、私も胸をはってこういいたいと思います。「日本だって、着々とジュニア・ゴルファーの育成には手を打っているよ。総本山のJGAには、以前とくらべて、組織も、資金も拡大したジュニア育成委員会ができたり、これから活動を見てほしいよ。」と。

最後に常日頃、ジュニアゴルフ発展の為に御尽力下さる皆様に深く感謝申し上げると共に、また明日から『わが友ジュニア・ゴルファー』の育成に微力をつくしていきたいと思っております。

昭和62年度 関東アマチュアゴルフ選手権競技

- 開催コース 東名カントリークラブ 全長 6,880ヤード パー72
- 開催期日 6月9日・10日・11日 54ホール ストロークプレー
(但し9日は風雨・濃霧、全員所定時間内にプレー不可能のため中止)



観戦記 KGA・広報委員 杉山通敬

巨艦“川岸丸”的船出

「年に数えるほど、片手の指を折るほどにしか霧によるプレー不能日はない」

と、開催コースの東名C.C.の城畠秀明常務理事が言っていたが、生憎にも初日は濃霧のために中止。予選は2日目18ホールの短期決戦になった。しかしその日も雨。成長の最盛期に入った芝には恵みの雨であったろうが、のり面の多いコースなので水を含んだラフの長い芝は各選手に“難題”をもたらした。クラブヘッドが抜けないので、ボールを弾き出すのは容易なことではなかった。そうした悪条件のなかで4選手がアンダーパーを出した。

加藤一彦69、伊沢利光70、川岸良兼と亀ヶ谷修が71。ほかに4選手がペーパー。予選通過ラインは79だった。69から79までの10打差のなかに73名がひしめく決勝ラウンドになった。5会場にわかつて行われた地区予選には合わせて658名が参加し、そのうちから本大会に駒を進めたのが165名、そして最終的に残ったのが73名。

その73名のなかからたった1名のチャンピオンが“結晶体”的にクリスタライズされる。ゴルフの選手権大会は、いつも厳しいものである。地区予

選からの参加者数で言えば658名のなかから、たった1人のチャンピオンが生まれる。単純な確率計算では0.15パーセントしかない。が、すでにそのチャンスをもつものは、数名にしばられている。いや、大方の予想ではたったの2名だった。

加藤一彦と川岸良兼である。他の選手にもチャンスがないとは言えなかったが、1日で消化する36ホールの決勝ラウンドの最初の18ホールで、この2人に肉迫するだけの成績を残したものは1人としていなかったので、最終ラウンドは2人のマッチレースになった。最終ラウンドを前にしての上位の成績は川岸良兼136、加藤一彦140、伊沢利光、竹村守144、大友富雄、丸山茂樹145。川岸は決勝の前半18ホールをボギーなしの7バーディー、“関東アマ”史上初の「65」という新記録で加藤を抜き去ったのだが、それでも最後の18ホールで再逆転の可能性は残されていた。

というのも2年前の同じ大会で、川岸は最後の9ホールで5打差をひっくり返させていたからである。しかもその相手が加藤だった。加藤の34に対して、川岸は40。最終ホールは加藤がパー、川岸はボギー。その1打で逆転されたのである。片方には夢もう一度という期待があり、一方には再び悪夢が訪れるような不安感があったろう。そういうものがプレーに影響しないはずがない。片や41歳で関東アマにはすでに4勝をあげ、片や20歳でまだ未勝利。



経験の差が歴然としているのも不気味である。

そうした目に見えない底流を水面下に隠して、最終ラウンドは1時15分に始まった。

加藤が早々にチャンスを迎えた。1番でピン左4メートルあるかなしかにツーオンさせた。が、そのパットを外す。ついで2番、やはり加藤はセカンドショットをピン左へ1番とはほぼ同距離に乗せ、今度はそれを決める。バーディーパットを決められた後、川岸は1メートルにみたないようなパーカットを外し、ボギーにする。4打差がたった1ホールで2打差になる。水面下の底流が早くも逆流を始めたかに見えた。

が、川岸は見事なドライブショットと、無難なロングアイアンの第2打、そして成長の片鱗を見せるような、押さえて打つアプローチで566ヤードの3番ホールを3オンさせたのに対し、加藤は第1打を左ラフに入れたことが災いして、第2打、第3打とも左のラフへ入れたうえ、第4打のアプローチもピンに寄らない。川岸は難なくパーで収め、加藤はボギーにする。

逆流しかけた“流れ”は再び川岸に向いた。4番(195ヤード)のパー3を4番アイアンでピン右1.5メートルに乗せた。そして、難しいフックラインを“逆ハンド”的ストロークで入れる。加藤はパー。2打差に詰め寄られた直後の2ホールで、再び4打差に戻す。“流れ”はますます、川岸に向いて来た。

ロフト10度のティラー・メイドのメタルヘッド、ドライブを、身長180センチ、体重85キロという偉丈夫が一振すると、ボールはまたたく間もなく空中に達し、5番(345ヤード)のフェアウェイをとらえ

る。打上げのホールながら、残りは80ヤードもない。そのアプローチを3番の第3打同様に押された打ち方で、ピンの1.5メートル上に乗せ、これを入れる。連続バーディーである。パーの加藤に5打差をつけた。

つづく6番(437ヤード)では右のOB、左の崖を警戒してティショットを3番アイアンで打つ。これが左の浅いラフに入り、セカンドショットもグリーン左のバンカーに入る。そのバンカーショットは2メートルほどにしか寄らず、パットも外す。ボギーで、パーの加藤と4打差になる。

7番(174ヤード)はともにパーだったが、8番(570ヤード)で再び1メートルほどのバーディーパットを決め、パーの加藤をつき離す。9番は両者パーだったので、アウトは川岸35、加藤36だった。通算で9アンダーと4アンダー、その差は2年前と同じ5ストロークである。

しかし、川岸のプレーぶりは2年前とはうってかわって落着いていた。ついぞフィニッシュが乱れるようなショットはしなかつたし、4月からやり始めたという“逆ハンド”的パッティングも落着いたストロークで乱れがないように見えた。



「成長したよ。すっかり上手くなった」

戦い終つて、加藤が感心していたが、20歳になつてゴルフのほうも成人したようである。今度は“日本アマ”だね。取材された記者にそう言われると、「頑張ります。」

この一勝が大きな自信になったことは確かであろう。

巨艦“川岸丸”的船出の氣味がある。

競技

昭和62年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者164名 6月9日(火)~11日(木) 於: 東名カントリークラブ

順位	選手名	所属	1R			2R			3R			合計
			アウトイン 計									
優勝	川岸良兼	鳥山城	38	33	71	32	33	65	35	36	71	207
2	加藤一彦	千葉	36	33	69	36	35	71	36	37	73	213
3	丸山茂樹	土浦	39	37	76	35	35	70	35	37	72	218
3	伊沢利光	上越国際・ 十日町	36	34	70	38	36	74	38	36	74	218
5	石井孝一	上総富士	37	38	75	37	36	73	37	35	72	220
5	中島広行	伊豆にらま	40	35	75	34	35	69	39	37	76	220
5	竹林守	浅見	37	35	72	36	36	72	38	38	76	220
(以上入賞)												
8	和田博	東京五日市	38	36	74	37	36	73	37	38	75	222
9	依田祐輔	日本大	39	37	76	35	37	72	37	38	75	223
9	大友富雄	塩原	34	38	72	36	37	73	38	40	78	223
9	亀ヶ谷修	東名厚木	34	37	71	38	39	77	37	38	75	223
12	高安信行	セントラル	38	38	76	37	35	72	38	38	76	224
12	小川透	岡部チサン	35	38	73	38	38	76	38	37	75	224
12	奥延通康	茨城	38	35	73	37	38	75	39	37	76	224
15	室状健二	東名	37	39	76	38	38	76	36	37	73	223
15	藤田雅也	岡部チサン	38	38	76	37	38	75	38	36	74	225
15	内藤正幸	桜ヶ丘	40	38	78	33	39	72	38	37	75	225
15	根本太満	水戸	37	37	74	39	38	77	37	37	74	225
15	和田雅英	東京五日市	36	36	72	38	37	75	42	36	78	225
15	久保雅照	専修大	37	40	77	35	39	74	35	39	74	225
21	鹿屋一郎	セントラル	40	33	77	36	38	74	39	36	75	226
22	飯塚信太郎	日本大	38	38	76	37	41	78	36	37	73	227
22	杉山直也	紫塚	35	37	72	36	40	76	40	39	79	227
22	杉田努	GMG八王子	36	40	76	38	39	77	36	38	74	227
25	大竹徹	高根	40	38	78	37	38	75	36	39	75	228
25	加部嗣男	東名	37	40	76	37	38	75	40	37	77	228
27	松井滋	鶴舞	39	37	76	36	39	75	38	40	78	229
27	北川裕規	日本大	37	40	76	34	36	70	44	39	83	229
27	原聰雄	東名厚木	39	36	75	38	39	77	38	39	77	229
27	太田再勇	大相模	38	40	78	40	37	77	35	39	74	229
27	成田朋正	豊岡国際	39	36	75	40	37	76	37	41	78	229
27	木下幸一	慶応大	39	36	75	40	37	77	40	37	77	229
27	鈴木亨	日本大	38	36	74	42	35	77	38	40	78	229
34	荒井準人	専修大	36	40	76	36	40	76	38	40	78	230
34	鳴田憲人	青梅	39	39	78	35	39	74	39	39	78	230
34	島村弘行	皆川城	37	41	78	38	37	75	40	37	77	230

(以上決勝ラウンド)

競技

昭和62年度 関東女子ゴルフ選手権競技

- 開催コース 埼玉県、小川カントリークラブ 全長6218ヤード パー74
- 開催期日 5月26日・27日 36ホール、ストロークプレー

観戦記 KGA広報委員 宮元 昭雄

三木恵美子(富士)初優勝

62年度関東女子ゴルフ選手権決勝競技は、予選(第1ブロック横浜、第2ブロック高根)を通過した147名(内5名欠場)の参加選手によって去る5月26、27日両日、埼玉県小川カントリークラブ(全長6218ヤード、パー74)において36ホール、ストロークプレーにより行われた。

関東地区の第一線級の女性が集結して、その技量を競う本大会は、例年ベテランに亘るジュニアーやたちの健闘がみられるなど極めて話題の多い大会である。そして、今年も例年なく新鋭とベテランの激しい首位争いを演じるなど熱戦が展開された。初日3アンダーと好調だった三木恵美子(富士カントリー)が学生界のホープ、喜多麻子とデットヒートをくりひろげ三木が1ストローク喜多を押えて3オーバー-151ストロークで辛くも逃げ切り、8度目の挑戦で関東女子を制した。

なお、上位41名が6月9日から開催される日本女子アマの出場権を獲得した。



▲優勝の喜びを満面の笑みで——三木恵美子さん(富士)

つとばかり腕がよくて人気があれば安易にプロの社会に飛び込んでいく時代だ。それを職業を選ぶこと自体にとやかく言う権利はないが、お粗末なプロの技術を見てガッカリするより、アマチュアの純粋なゴルフを見ている方が極めて清々しい気持ちになる。近年女性のゴルファーの急激な増加が目立つ中で特にアウト・ドア・スポーツの花形としてのゴルフの人気はニューウェーブといわれるヤングの中でその人気を独占する勢いだと聞いていた。スポーツとして華やかさの中にそのマナーがより尊重されるゴルフ、いわばお嬢様たちの駆けの教育にもなるうと、世の多くの家庭の父母たちも娘たちのゴルフ入門にすんで歓迎する傾向が強いのも時の趨勢というものかも知れない。

さて前置は省略しよう。とにかく去る5月26、27日の2日間にわたって行われた関東女子アマの大会、地区大会の予選をクリアした142名の選手たち。いかにも純粋で生き生きとした女たちだけの熱い戦いを観戦した。

優勝という目前のタイトルに向って1人のプレイヤーが言い知れぬ重圧と戦いながらその1ホールの征服にかける執念と精神力は大変なものである。それを想像しつつその技を見る者にとっても実に感動の多い大会であった。

初日3アンダーでトップに立った三木恵美子『久々のチャンスだし、なんとしても物にしたい』と8年目に訪れたピック・タイトルを睨んで必勝の意欲を語ってくれたが、この2、3年はいわばニューウェーブといわれる学生や若手の台頭で三木の存在もすっかり忘れかけていたし、慶應大学のゴルフ部で頭角を表し、全日本学生チャンピオンを2回、日本リーグのMVPに輝くなど学生時代はお嬢様ゴルファーのリーダー格の人として評価の高かった彼女も卒業後はサッパリそのタイトルから見放された格好の日々、それだけにこの訪れた関東のピック・タイトルにかける執念も人一倍のものであったことは想像できた。

ましてやナショナル・チームの強化選手や他のシード選手の大半が三木とは反対のアウトからのスタートに集中し、彼女だけがボツリとインスタート。「よし、若い子たちには絶対負けたくない」と、スタート前から或る意味での彼女自身が発奮する刺激剤になったのかも知れない。

初日、10番からバーセーブを続け、やっと18番で

▼三木・(左)、喜多(右)さんのティーショット



バーディー。1アンダーで折り返したバックナインも2、3、4番と連続バーディーを決めて快調の波に乗り切った。

「ピンチをうまく切り抜けられたし、チャンスを物に出来た幸運の一日」と彼女が言うように久し振りに手堅いプレーに終始したのが結果的によかったのかも知れない。

決勝ラウンドはベテラン吉沢キミ子(セントラル)のほかにヤング・グループのトップを行く日大グループの喜多麻子(烏山城)、原田香里(烏山城)ら4人の対決となった。パワーに勝る喜多の追い込みに対してステディーなゴルフを信条とする三木との対決、しかも慶應対日大という学校対抗意識も手伝ってこの日の応援合戦も一段と華やかなものになった。

全長6218m、パー74、コースとしては決して長い方ではない。トリッキーなホールが多くむしろ各選手にとって1打の落しどころとアプローチの運・不運がスコア・マークに大きくかかわってくるとあって、いつなくナーバスになっている選手が目立つた。

コースはこの大会のために入念な整備が行き届き、特にグリーン回りのバンカーなどは淵落しを完全にしてトラブルの原因にならないよう意が尽くされるなど、本年度の最初のメジャートーナメントとしては天候にも恵まれ絶好の条件下での大会が進められたことは何よりだったと思う。

最終日午後になって風が強まり殆んどの選手のスコアーが伸び悩んでいた。むしろ風にあおられるのを防ぐためにショット自体がコントロールされ、距離の割りにバーディーラッシュが見られなかつたのは寂しい限りだが、各選手が苦しみながらも攻め続ける姿に多くのギャラリーは惜しみない声援を送り続けていた。

若手の間にはさまって、『なんとか頑張るわ』と初日1オーバーの75で4位タイの吉沢選手、『昨日は歯車もうまく合っていたが、今日はパットがどうも……』と若いパワーに押され気味でじりじりと後退、15年連続出場の名脇にかけてもと奮戦する姿が印象的だった。

僚友喜多とともに三木を追う原田も出足の2番でトリプルボギーを出して自滅、喜多、原田の狹霧を



▲女子競技ならではの華やかなパーティ

受けて必死に逃げ込みを果たそうとする三木も1番では堅さがあったのかボギーを出して早々に喜多と並んで波乱の幕明けが予想されるなど両者追いつかれの攻防が続いた。

喜多も今ひとつどこかショットがかみ合わない。前半9ホールを終って両者イープンでバックナインに折り返したが三木、喜多両者は一進一退を続ける。11番喜多がボギーを先行、しかし13番ロングで見事バーディーで両者タイ。この頃になると応援にも熱が加わってくる。

14番、気の緩みか喜多がダブル・ボギーを出し、三木のボギーを助けたように見えたが必死に攻める喜多の執念、15番では三木のボギーでまたも両者一直線上に並んだ。終始笑顔でラウンドしていた喜多の表情にきびしさが走り、いつしか笑顔が消えていた。三木も全身に堅さが見られ、これまでに見せていた柔かいスウィングが見られない。淡々とした表情の三木の内心にかくし切れない不安がつきまとっているに違いない。

『勝たなければいけない』という心理的な負担を考えれば追う方が有利といわれるが、優勝を争う二人、そのプレッシャーは計り知れないものだろうし、少しでも隙をみせたらそこを突いて攻め込むという精神的パワーがこの若い二人の女性の中に見い出せるかどうかは別としてゴルフはこのようなきびしい修羅場を何回も経験してこそ強くなっていくものであり、両者の対決の行方は運を天にまかせる以外にあるまいと筆者は二人の熱い戦いを追い続けた。

過酷なまでの対決、並ばれては開き直る両者。攻

めることより時には守ることも必要なゴルフのテクニック、その裏側には大きなペナルティーとアドバンテージが重なり合っていることなど当人たちの気持ちの中ではそんなことを考える余裕はない。

こうしたかけひきを続ける二人の心理状態を思うとき、ゴルフには諦め切れない謎の魅力が潜んでおり、そのため飽くなき未知の可能性に挑戦するのがゴルフの楽しみなんだと、一人合点しながら残された16番からの3ホールの行方を静かに観戦した。

16番ショートホール、喜多のショットは左にそれグリーンをはずした。2打も失敗して3オン、長いボギーパットを幸運にも沈めたものの、三木が手堅くバーで切り抜け一差をつけて先行した。まだ安全圏ではない、三木の顔にきびしさが一段と感じられた一瞬だ。

17番ロングは両者バー。いよいよ最終ホール。喜多にとって残された唯一のホールだ。なんとかバーディーをとって三木を捉えたいという気持ちだったに違いない。前組のグリーンがあく間に喜多はキヤディーにつぶやいていた。『一差、最終ホールでしょう。普通だったら絶対にプレッシャーが掛かるはずよねー』と。それが喜多にとって自問自答なのかどうかは理解出来ないが自らの気持ちを静めるためのものであったかも知れない。ゴルフがいかに孤独なゲームであるかという心理状態が読める。しかし三木は不安な気持ちを押えるかのように平静を保つことにつとめていた。グリーンは受けグリーン。三木はオーバーすることをさせてグリーン手前1mに2打目を打っていく。お互いがいかにマネージメントをするかを知っている両者の対決。手に汗を握る一瞬だ。これを見た喜多は果敢にピンを直接狙っていた。バーディーをとる以外に道はないとこの一打にかけたがピンを3mオーバーしてしまった。三木は手堅く1.2mに寄せ、喜多のバーディーパットを静かに見守った。攻めるか守るかは微妙に選手の心理状態を迷わせるものである。果敢に攻めた喜多の球は下りのパットを残し、守りに入った三木はやや右からの1.2mの安全圏。しかし若しプレッシャーに押しつぶされることになれば、例えそれが1mのパットだとしても絶対に入るのは限らない。メンタルなゴルフ、しかも筋書きのないドラマはこうしたケースでは時と



▲関東女子連続15年出場の吉沢キミ子さん（セントラル）

して予想もしないことが起きるから一寸先は闇ということになる。真剣に芝とラインを読んだ喜多のバーディーパットは無情にもカップの右をかすめて1mオーバーした。返しを先に入れた喜多。心なしか重い足どりだ。万事休す。残るは三木のパット・ミスを待つのみだ。しかし三木は時間をかけてグリーンと聞いた。入れば勝ちだ。目の前のカップが遠く小さく感じたに違いない。感激の一瞬はこの白球が沈んだときグリーンサイドにいた仲間の祝福でやっと笑顔が三木に戻って来たときだった。

「あなた、優勝よ」「え!!うそでしよう！」三木には信じられなかった。それは決勝ラウンドにしては余りにもスコアが伸びず悲かったからだ。「きっと前の人には抜かれてるかも……」という不安が常につきまとっていたからだ。強風、そして初日3アンダーの好スコアに比べこの日は6オーバーの80。宿敵喜多と並んで80のアガリとは言え決してセフティ一なスコアではなかったからだ。緊張し続けていただけに「優勝よ、おめでとう」と球友たちに祝福されても信じられなかつたに違いない。幸運の女神は三木を離さなかったのだ。

『喜多さんのゴルフを見ていい勉強になった』と三木はパーティーでライバルを讃えたが、三木にとってこの大会での敵は喜多でも原田でもなく自分自身であり自分のゴルフとの戦いであったに違いない。

よくぞ孤独に耐え切って頑張り通したものだ。

ピクトリーの大銀皿を連盟の武内副理事長から手渡されたとき、はじめて三木の頬に細い涙のつたわるもののが見えた。

苦しみ抜いて勝ち取った栄冠、心からおめでとうと拍手をおくろう。この機会をジャンプ台にしてさらに大きく羽ばたいて貰いたい。

また惜しくも敗れた喜多選手にも拍手を送りたい。持ち前のパワーとその積極的な攻めのゴルフに一段と磨きをかけて捲土重来を期して欲しい。日本の女子ゴルフ界のために新しい息吹きを吹き込んで貰いたいものだ。

最後に今大会で感じたことは若いノワールな選手の中にあってベテラン組の活躍が目立つことだ。ナショナル・チームの女子チームのキャプテンとして海外遠征が続く中で自からの練習量が減少しているにもかかわらず大健闘した尾閥久江(武藏)や毎回大会で健闘する吉沢キミ子(セントラル)、そして4位タイに入賞した鷲田万里子(千曲高原)ら、上位にベテラン陣が名前を並べたことも意義が深い。そして、選手の世代交代のはげしい中で、決勝出場連続15年・10年の偉業をなしとげ、特別表彰を受けた、吉沢キミ子(セントラル・15年)、荒山朋子(長野・10年)、山崎満江(相武・10年)、山根みどり(日高・10年)の3ベテラン選手の活躍も特記しておきたい。一方大型新人の到来と昨年から騒がれていた丸谷京子(最上新里)など今年は昨年のような戦績を残せなかつたが、若手は総じてゴルフが何であるかを今一度見直して技術的にもまた精神的な面でも勉強して明日のために研鑽につとめて飛躍して来て欲しい。ゴルフが上手だということだけではなくなりプロに互して活躍するのもよいが、アマチュアリズムを忘れずに激増する女性ゴルファーの手本となるようにせめて本大会に出場出来る資格のある選手たちはその手本となるよう技術とは別に品性の点において大いに勉強をして貰いたいものだ。それが関東女子アマチュアゴルフ選手権の持つ大きな目的であり意義でもある。限りない期待を託して観戦した2日間であったことを特記しておこう。

昭和62年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者142名 5月26日(火)・27日(水) 於：小川カントリークラブ

順位	選手名	所属	第1ラウンド アウトイン 計	第2ラウンド アウトイン 計	合計	順位	選手名	所属	第1ラウンド アウトイン 計	第2ラウンド アウトイン 計	合計
			アウトイン 計	アウトイン 計					アウトイン 計	アウトイン 計	
優勝	三木恵美子	富士山城	35 36 71	41 39 80	151	67	福井里佳	浦和	44 44 88	44 43 87	175
2	喜多麻子	富士山城	37 35 72	40 40 80	152	67	佐々木ルミ	赤城国際	44 43 87	44 44 88	175
3	原田春香	富士山城	38 36 74	41 41 82	156	74	山田泰子	同部チサン	45 42 87	44 45 89	176
4	水沢利永子	東京	36 39 75	42 41 83	158	74	中村静江	千葉県	45 45 90	43 43 86	176
(以上入賞)						74	富沢照子	武藏	44 46 90	43 44 86	176
4	鷲田万里子	千曲高原	37 38 75	40 43 83	158	74	土川里枝	武藏	44 44 90	42 44 86	176
5	大笠原みさ子	大厚木	44 39 83	39 37 76	159	74	龜井陽子	河口湖	44 43 87	42 47 89	176
6	尾崎久江	武藏	40 42 82	38 39 77	159	79	小野田さき	大妻野	38 48 86	45 46 91	177
8	吉沢キミ子	セントラル	36 39 75	43 42 85	160	79	金子清子	同部チサン	42 44 86	43 48 91	177
9	泰曾智修	大	40 46 86	38 37 75	161	79	山崎満江	相武	43 40 83	50 44 94	177
10	矢島智裕子	富士太陽	41 42 83	38 41 79	162	79	福井祐子	富士御殿場	45 45 90	44 43 87	177
11	山崎美津江	太	41 38 79	40 43 83	162	79	鶴村綾子	諫	48 42 90	43 44 87	177
12	木原智絵	修	38 40 78	41 43 84	162	79	長岡洋子	埼玉	44 44 88	42 47 89	177
13	合谷	青山学院大	41 38 79	39 45 84	163	85	石井真由美	東名厚木	43 44 87	45 46 91	178
13	黒沼カホル	鳥山城	39 40 79	44 40 84	163	85	藤田伸子	東京みゆう	45 49 94	43 41 84	178
13	湯原英美	鳥山城	40 38 78	43 42 85	163	85	豊田雅子	春	46 46 92	42 48 86	178
13	芥川真澄	平塚富士見	40 38 78	43 42 85	163	85	齐藤弥弥子	霞ヶ関	50 41 91	45 42 87	178
17	市川慶子	江戸崎	39 43 82	42 40 82	164	85	伊藤尚子	東	44 47 91	45 42 87	178
17	大冢幸子	東京国際	40 42 82	43 39 82	164	85	中江幸子	大慶	46 43 89	46 43 89	178
17	須賀みお	浦和	39 43 82	40 42 82	164	85	東我孫子	応	42 46 88	45 45 90	178
17	金田正子	大厚木	43 37 80	43 41 84	164	92	萩原和子	飯能バーグ	44 43 87	46 46 92	179
21	鈴木仁之	大泰野	44 40 84	39 42 81	165	92	青木美保子	野	42 45 87	45 47 92	179
21	伊能仁美	東京国際	39 38 82	43 40 83	165	94	板橋博子	生	44 43 87	44 49 93	180
21	久松由里子	東京国際	40 39 79	43 43 86	165	94	中村陽子	新	42 44 86	46 48 94	180
21	青木菜穂	東船	38 40 78	44 43 87	165	94	石田智子	千葉県	48 42 90	44 46 90	180
21	今井美千代	東名厚木	37 40 77	44 44 88	166	94	山下典子	大	42 46 88	45 47 92	180
26	丸谷京子	最上新里	38 40 78	44 44 88	166	94	三輪静枝	大	42 42 87	49 44 93	180
27	森田晴美	東京国際	44 42 86	41 40 81	167	94	藤森和子	中	42 45 87	47 46 93	180
27	福木佳世	本千葉	45 39 84	40 43 83	167	100	小林明子	長野	48 45 93	44 48 88	181
27	加藤知子	伊勢原	45 38 83	45 39 84	167	100	二宮クララ	横	44 47 91	49 41 90	181
27	福井美保	GMG八王子	44 39 83	42 42 84	167	100	樋口	相模	47 43 90	45 46 91	181
27	中田朱里	平塚富士見	37 42 79	45 43 88	167	100	目崎美枝子	江戸崎	45 49 90	45 49 91	181
32	吉田順子	日体大	41 45 86	44 38 82	168	100	新城嘉子	大	45 44 89	46 46 92	181
32	谷口典江	河口湖	45 38 83	42 43 85	168	100	井木薫子	横	46 43 89	43 49 92	181
32	渡辺恵子	高	41 42 83	41 45 85	168	100	石井由紀	東京国際	43 45 88	44 49 93	181
32	大隈順巳	大熱海国際	39 40 79	44 45 89	168	100	島崎吉枝	かずさ	41 47 88	50 43 93	181
36	宮前慶子	伊勢原	41 46 87	39 43 82	169	100	八木かづえ	東我孫子	45 43 88	44 49 93	181
36	上條洋子	本松	44 42 86	42 41 83	169	100	平戸美知代	慶	42 46 88	45 48 93	181
36	加藤勝子	平塚富士見	39 46 85	41 43 84	169	100	田代由紀枝	大	41 46 87	45 49 94	181
36	山崎朋子	長野	42 42 84	45 40 85	169	111	今道子	山国宮	44 53 97	43 42 85	182
36	近藤恵美子	富士ロイヤル	41 42 83	42 44 86	169	111	内田トシ子	東ノ	44 47 91	48 43 91	182
36	中村友美	千葉	40 41 81	42 46 88	169	111	大竹朱美	高	47 41 88	45 49 94	182
42	原田志	習志野	42 42 84	45 41 86	170	114	森葉由紀	坂	44 48 92	48 43 91	183
42	山根みどり	高	42 41 83	44 43 87	170	114	森下由子	国際	45 45 90	44 49 93	183
42	野上千江里	藤岡	39 41 80	42 48 90	170	114	折原輝子	千葉	45 42 87	47 49 96	183
42	長橋光子	水戸	41 46 87	42 41 83	170	117	茂庭美保	武藏	44 43 87	52 45 97	184
42	佐川恵治	大	42 45 87	43 40 83	170	117	田中優子	茂	50 45 95	44 45 89	184
47	原恵美子	東名厚木	46 38 84	43 44 87	171	117	二階堂雅子	見	47 47 94	44 46 90	184
47	是久尚美	日体大	41 42 83	42 44 86	171	123	松原豊子	総成	41 52 93	46 45 91	184
47	仁科敏枝	草津	40 41 81	46 44 90	171	117	眉脣静子	東京	46 46 92	47 45 92	184
47	和田千つ子	中山	41 46 87	39 45 84	171	123	山崎恵子	那	44 45 89	45 50 95	184
47	上田雅子	日体大	42 45 87	43 41 84	171	123	管野尚子	東京国際	45 48 92	47 46 93	185
52	許斐順子	根岸	42 42 84	45 43 88	172	123	島崎利江	谷	45 46 91	48 46 94	185
52	外川理子	河口湖	41 43 84	42 46 88	172	123	藤呂裕子	鎌ヶ谷	46 45 91	46 48 94	185
52	大久保清子	越	40 43 83	46 43 89	172	123	手塚雅子	生	43 48 91	47 47 94	185
52	岩田津子	相模原	41 43 78	46 47 93	172	123	中根店	霞ヶ関	44 45 89	48 48 96	185
52	川原恵美子	横野	37 42 79	46 47 93	172	129	山口佑子	東京国際	45 46 91	47 48 95	186
57	小松恭子	紫雲	39 48 87	42 44 86	173	129	林久美子	大利	43 47 90	48 48 96	186
57	横野哲	東京国際	44 42 86	45 42 87	173	132	日柄祐子	舞	48 41 89	45 52 97	186
57	小出千枝子	千葉	43 42 85	45 43 88	173	132	野村紀恵子	越	44 48 92	47 49 96	188
57	石川淑子	江戸崎	42 40 82	47 44 91	173	133	三枝文子	武藏	46 46 92	50 47 97	189
57	佐藤夕希子	大	39 43 82	46 45 91	173	134	細谷昌惠	野	51 44 95	46 49 95	190
63	加藤信子	美	40 43 83	45 46 91	174	134	佐藤寿美恵	東京みゆう	49 45 94	47 49 96	190
63	野村七恵	大	38 45 83	48 43 91	174	134	金井朱実	ノーザン	47 41 88	53 49 82	190
63	長木陽子	千	46 44 90	45 39 84	174	137	中井百合子	千葉	47 51 98	42 52 94	192
63	長木陽子	成	43 43 87	44 43 87	174	138	細谷勢子	千葉	48 47 95	48 47 95	194
67	西村光子	相模原	41 45 86	49 40 89	175	139	鈴木勢子	武藏	43 50 93	48 54 102	195
67	田村千代子	鍾ヶ谷	42 44 86	46 43 89	175	140	横木栄子	小田原	46 43 89	54 50 108	197
67	猪股美惠子	大	45 40 85	46 44 90	175	141	大倉多美子	浦	46 51 97	54 47 101	198
67	宮沢ふく美	八	40 44 84	44 47 91	175						失格
67	森 美代	鑑	45 43 88	45 42 87	175						

●予選メダリスト 第1ブロック 鈴木エツ(大秦野) 第2ブロック 小松恭子(紫塚) 市川慶子(江戸崎)

競技

昭和62年度 関東倶楽部対抗予選競技



倶楽部対抗は、年に一度のゴルフの祭典だ。選りすぐられた精鋭が、倶楽部の名譽と誇りをかけて技を競い合う。応援合戦も火花を散らす——しかし、戦いがすめば雰囲気は一変し、互いの健闘をたたえあいながら、またの再会を約し幕を閉じる。

東京地区

開催日：6月1日(月)

コース：多摩カントリークラブ

コース全長：6,640ヤード・パー72

参加チーム：14チーム・112人

決勝進出チーム：①武藏野ゴルフクラブ

②青梅ゴルフ倶楽部

開催コースは、多摩ニュータウンの入口に位置している。綏やかなアンジュレーション、広々としたフェアウェイは、いま、まさに緑一色。ホールによっては、新宿をはじめ、都心の高層ビルが眺望できる。

さて、この日は朝から真夏を思わせるような暑さ、それに加えて、仕近くには南風が強まり、選手を大いに悩ました。しかし、さすがに上位入賞チームの選手は、日頃の研鑽の成果を発揮し、スコアをよくまとめた。

スコアシートに記入されてゆくたびに、倶楽部関係者は一喜一憂した。スコアボードの周りは、不安、期待、自信が囁き声となって異様な雰囲気がただよう。

優勝の栄冠は、実力と豊富な練習量、それに何よりもチームワークにまつた、「武藏野ゴルフクラブ」の頭上に輝いた。本競技3度目の優勝である。

準優勝は惜しく1打差で「青梅ゴルフ倶楽部」同スコアながら3位に甘んじた「立川国際カントリー倶楽部」などまさしく力量紙一重であった。

表彰式は、熱戦の尾をひいて、会場は熱気ムンムン、一段と盛り上った。好成績に気をよくしたチーム、予想外の結果に気落ちをかくせない応援団など、表情は悲喜こもごもであった。

「今年もまた参加することに意義があったよ」と某倶楽部の関係者、しかしその表情はそれでも満足気であった。

最後に4月、5月と予期もない旱魃のため、芝の生育が思わしくなく、コース課ではその管理に四苦、八苦させられたことを報告したい。

しかし5月中旬すぎからの雨でなんとか持ち直し、まずはコンディションで競技日を迎えることができた。はたして、参加各倶楽部の諸氏にご満足いただけたか、いささか心もとないが、開催コースとしては、責任を果たしたことホッとしている。

決勝進出チームの健闘を祈る。

埼玉地区



開催日：6月1日(月)

コース：鴻巣カントリークラブ

コース全長：6,818ヤード・パー72

参加チーム：20チーム・160人

決勝進出チーム：①飯能ゴルフクラブ
②嵐山カントリークラブ
③武藏カントリークラブ

競技当日気温は30度を越え、真夏を思わせた。そして会場をさらに熱くしたのが、早朝よりかけつけた各倶楽部の大応援団、各選手のショット、あ

るいはパッティングに一喜一憂する姿が随所で見受けられた。ときに歓声、ときに溜息が会場に流れた。

成績は、奇しくも森井競技委員長の所属される「飯能ゴルフクラブ」が堂々の初優勝、以下「嵐山カントリークラブ」「武藏カントリークラブ」と続いたが、最後まで予断を許さぬ大接戦であった。

わが「鴻巣」チームも、開催倶楽部の面子をかけ、強豪に亘り善戦健闘、4位(3位タイ)となつた。

表彰式は自軍(武藏)の応援にかけつけた武内副理事長も出席して、盛況裡に無事終了した。

関係各位のご支援、ご協力に心より御礼申し上げたい。そして予選を通過した3チームの決勝大会での活躍を祈念する。

千葉地区



開催日：6月1日(月)

コース：姉ヶ崎カントリー倶楽部(西・東コース)

コース全長：Aクラス 西 6,846ヤード・パー72

東 6,859ヤード・パー72

参加チーム：38チーム・304人

決勝進出チーム：①袖ヶ浦カントリー倶楽部
②千葉カントリークラブ
③鶴舞カントリー倶楽部
④習志野カントリークラブ
⑤我孫子ゴルフ倶楽部

千葉ブロックは、関東最大の激戦区である。38倶楽部のえらび抜かれた精鋭が覇を競うのである。

当日は正午頃、気温が27度、選手はもちろんのこと、応援の諸氏もこの暑さは予想外のことであり、相当こたえたようだ。

開催倶楽部としても、数ヵ月前より準備に入り、遺漏のない様努めてきたが、何分3月4月の芽立ち

の時分は低温で、フェアウェイの整備には苦労させられた。

また年々応援団の人数が増加しているので、駐車場を500台分用意したが、今回はこれまた予想外の大人数、用意した駐車場はたちまち満車、お隣の「八幡カントリークラブ」さんの駐車場をお借りした始末である。(「八幡」さんにはこの紙面を借りてお礼申し上げます。)

運営面では、食堂の利用について工夫をこらした。38チームを、倶楽部毎に席を定め、朝7時のオープンと同時に、朝食、昼食、夜の表彰式まで同じ席を利用させていただいた。プレー後の疲れた選手には好評のようだった。

コースのあちらこちらに咲いた、色とりどりのバラソルも、午後4時には散って、和やかな雰囲気のうち大会は終了した。

最後に老婆心ながら次回開催コースの「房総カントリークラブ」さんへ一言申し送りたい。「いちばん困った事は、試会当日の選手変更がたいへん多かった」ことである。

KGA側もこの事を予想してか、今年度の実施規定は改善されていたが、未だ不十分である。今後の課題として、更にご検討いただきたい。

神奈川地区

開催日：6月2日(火)

コース：奏野カントリークラブ

コース全長：6,278ヤード・パー72

参加チーム：19チーム・152人

決勝進出チーム：①東名厚木カントリー倶楽部
②戸塚カントリー倶楽部
③横浜カントリークラブ

開場8年目にして、始めてお引受けした公式競技である。

従業員、キャディとも参加各倶楽部に満足いただけるプレーをしていただけるか、相当不安であった。

しかし、1日(月)が休場日であったため、全員に完全休養をとらせ明日に備えさせた。ために競技当日は全員明るく元気に、各々の持場にちらばった。

前夜の天気予報は低気圧が接近中との事で心配したが、当日は晴天、絶好のゴルフ日和となった。8

競技

時Aクラスはアウト、Bクラスはインから一齊にスタートした。

さて、今年は4月の降雨量が 56.5mm 、と非常に少なく、フェアウェイ、ラフの伸びが不揃いであった。5月に入り、 113% の降雨量があったもののコンディションはあと一息の状態、各選手にお詫びしたかったが、これだけは天のなせるわざ、いかんとも手の打ちようがなかった。

午後になり、選手がカードを提出し始めると、各俱楽部の応援の方々の熱い視線は、スコアボードに釘づけとなつた。

午後5時よりクラブハウスで表彰式が開催され、小林競技委員長より成績発表、和やかなパーティーに移つた。

関係各位・参加俱楽部の諸氏のおかげで、何事もなく競技を終了することができた。心より感謝したい。

最後に、練習ラウンドではあるが、レインボーセンターハウスの浜野賢氏がNo.7ホール、宮台秀夫氏がNo.4ホールで、各々ホールインワンを記録したことを記しておきたい。

茨城第1地区



開催日：5月25日(月)

コース：麻生カントリークラブ

コース全長：Aクラス 6,388ヤード パー72

：Bクラス 6,813ヤード パー72

参加チーム：13チーム・104人

決勝進出チーム：①アジア下館カントリー倶楽部

：②水戸グリーンカントリー倶楽部

快晴の下、当コースとしては最高のコンディションで選手の皆様にプレーして頂けたことと、自負し

ているが、いかがだったろうか。もし、ご満足いただけたとしたら開催コースとして、この上ない喜びであるが、五月は長期間の日照りが続き、競技の二日前になって大量の雨、そして当日は夢の様な五月晴れ。まさに天の恵みとしかいいようがない。御蔭様で、競技は、盛会裡に滞りなく終了、開催コース関係者一同胸をなでおろした次第である。それまでの疲れもすっ飛んでしまう思いだった。

さすがに伝統ある競技会だけに、スタート前の各選手は異様としかしか表現のしようがないような雰囲気に包まれ、またコースを知り尽くしているはずのホームコース選手諸兄も、逆にプレッシャーが掛かり過ぎている様にも見受けられた。それでも、当麻生C.C.代表選手の諸氏は、善戦健闘し、昨年より3位ほど順位が上って堂々？の9位に躍進した。これで開催俱楽部の面子もたちホッとした。応援の方々も多数御来場いただいた。応援といえば目を見張ったのが各俱楽部のこもった選手への差入れ弁当である。レストランのチーフ顔負けの超豪華版もあり、驚かされた。倶楽部対抗ならではのはほえましい風景といえよう。

わが倶楽部としては、開場以来初の公式競技であり、1年前より準備に入っていたが、済んでしまえば、打上花火と同じ様なもの。しかし、皆様より大成功と云って頂き、麻生C.C.の歴史に残る楽しい一日であった。関係者諸氏の御協力に心より御礼申し上げたい。

茨城第2地区

開催日：6月1日(月)

コース：土浦カントリー倶楽部

コース全長：6,685ヤード・パー72

参加チーム：13チーム・104人

決勝進出チーム：①大利根カントリークラブ

：②セントラルゴルフクラブ

各俱楽部のユニフォームに身を包んだ選手達が、その雄姿を現わすと何の変哲もないコースが見事に変貌を遂げるから不思議である。

ティーグランドに立てばホールをセパレートする松の木立は俄に風格を帯びはじめ、いったんグリー



ンに上がれば敷き詰められたじゅうたんは急に輝き出す。

たかが一日。されど一日。

この一日のためにどれ程多くの選手が精進を重ね、どれだけ各コースの事務局の方々が苦労を惜しまなかつたか、ただただ頭の下がる思いである。

六月の太陽を一片の雲も遮らうともしなかつたこの日、それらに支えられて18HSの舞台は静かに、そして熱く幕を閉じた。

.....

選手達は土浦を去った。

幾多の後悔と自信と、そしてアマチュアの誇りを胸におさめて。或る者は決勝への闘志を燃しながら、また或る者は88年の栄光を日差して……。

栃木第1地区



開催日：6月3日(水)

競技当日は、朝から絶好の晴天に恵まれた……が正午頃より、栃木北部に雷雨強風注意報が出され、襲雷が心配となつた。

しかし、それも杞憂に終わり、無事終了した。

成績は、首位が実施規定に従つてBクラス4人目のスコアで決まるきわどい勝負であった。

運営面では、設備その他、万端おこたりなくしたつもりであるが、不手際の点が多々あったと思う。紙面をかりておわび申しあげたい。

とはいへ、競技は何のトラブルもなく盛況裡に終了できた。関係諸氏に改めてお礼を申しあげる次第である。

栃木第2地区



開催日：6月3日(水)

コース：宇都宮カントリークラブ

コース全長：6,864ヤード・パー72

参加チーム：18チーム・144人

決勝進出チーム：①宇都宮カントリークラブ

：②鹿沼カントリー倶楽部

：③塩原カントリークラブ

大会当日の天気予報には、大変心配させられた。しかし、終盤多少の小雨があつたのでまあ、絶好のゴルフ日和となり、選手の諸氏も、日頃練成された成果を如何なく発揮出来たものと思われる。また、各俱楽部の支配人並びに従業員をはじめ一般の方々も多数応援に駆けつけ熱戦の展開を観戦、終了間際ともなると集計ボードの前は黒山の人となり熱気溢れんばかりのムードとなつた。

集計作業も順調に終り成績発表の結果当倶楽部が四年ぶり、過去にないベスト・スコアで七回目の優勝の栄を得得することが出来た。

競技

勝因をかえりみれば、地の利の良さはもとより、今回はキャプテンを中心に選手一丸となり努力した結果の賜とわが俱楽部の選手ながら頭の下る思いであった。予選を通過された各俱楽部とも決勝大会では大いに奮起し優秀な成績を達成出来ることを祈願したい。そして、今大会にご協力をいたいたいた関係者の皆様に感謝の意を表する次第である。

群馬地区



開催日：5月26日(火)

コース：関越ハイランドゴルフクラブ

コース全長：6,510ヤード・パー72

参加チーム：16チーム・128人

決勝進出チーム：①太田双葉カントリークラブ
②伊香保カントリー倶楽部

このような大きいイベントの経験は当倶楽部としては少なく、いわばぶつけ本番で処理をしなければならないものばかりだった。自分(支配人)では落着いているつもりでも、なかなか思う様に身体がついていかずもどかしい思いの連続だった。

その上、数ヵ月間というもの気候不順で、せっかくの競技会を少しでも良い条件でプレーさせてあげたいと神に祈る気持であった。

昨年十月、新改造後のコースレート査定が行なわれた日、古茶委員長より「関越は晴れランドだ。きょうも雨は大丈夫だ」という一言に気を良くしたこともあって、せめて当日は何とか雨に見舞われるとのない様にと願っていた次第である。幸い競技終了迄、持ちこたえ、関係者一同胸をなでおろした。

さて競技だが、はたしてコースコンディションはご満足頂けるようなメンテが行き届いていたものかどうか。しかしあつも厳しい助言をくださる福田

常務理事からも、今回は特別なご注意、叱言もなく、また他の委員諸氏からも殊更お叱りも受けなかつたので、何とか開催倶楽部の体面を取り繕うことができたのではないかとほつとした次第である。今後、これを機に一層努力を重ね、コースを訪れる人たちに等しく「ハイランドは良くなつた。誇れるコースになった」と言われるような倶楽部造りに専念したい。対抗試合に参加なされた役員や選手の方々にも、機会があったらこれを機に是非プレーにお出で頂ければと思う。

競技は、太田双葉さんがいわば、前評判の結果通りでさすがと思ったが、やはり気になったのは、当倶楽部の成績である。

掲示を見ている社員から準優勝は無理、良くいって三位、との報告を聞き、ホームコースの利かないと思ったものだが、次の報告では三位も無理、次は四位もと変り、最終的に六位であった。今は、残念と思う反面、良く健闘してくれたものと感謝の気持でいっぱいである。欲を言えばきりがない。ただ裏方として最後まで気の抜けぬ思いであったが、諸氏のご協力で無事終了できたことを誌上を借りて御礼申しのべたい。

静岡地区



開催日：6月1日(月)

コース：富士小山ゴルフクラブ

コース全長：6,957ヤード・パー72

参加チーム：22チーム・176人

決勝進出チーム：①東名カントリークラブ
②浜松豊岡国際カントリークラブ
③富士宮ゴルフクラブ

競技は快晴無風の最高の天候に恵まれ幕を開けた。

開催コースは開場25周年にあたり、社員全員が一丸となって、コース整備に努めた結果例年より高い気温も幸いしコース、グリーンとも上々の仕上りとなり熱戦が繰り広げられた。

運営面では、食堂の利用を関係者ならびに応援ギャラリーの諸氏にまでオープンすることとした。チームごとに席を設け特に朝食については、事前に予約をいたさき午前6時より一斉に配膳し約400食、昼食についても約450食のご利用があり皆さんに喜んでいただいた。

今回は特に各チームとも、オーナーや支配人をはじめキャディさん、多数のギャラリーが大型バスで来場、参加選手の意気は大いに上った。そして練習の成果が如実に成績に反映された。団体は、東名カントリークラブが5年連続優勝の栄冠を勝ち取った。

表彰式は、午後4時50分より開催、同5時40分万歳三唱の下、大盛況のうちに幕を閉じた。

長野地区



開催日：6月2日(火)

コース：長野国際カントリークラブ

コース全長：6,658ヤード・パー72

参加チーム：14チーム・112人

決勝進出チーム：①長野カントリークラブ
②諏訪湖カントリークラブ

開催倶楽部は長野県では一番北に位置し北信五岳(飯綱山・黒姫山・妙高山・戸穂山・斑尾山)が一望出来る風光明美の地。

当日は晴天に恵まれ、好スコアが期待されたが、各ホールのグリーンはアンジュレーションがあり、4mmのWカット刈りの為、各選手ともこのグリーンに苦しんだ様子である。

成績は別掲の通りだが渡辺 勇選手(長野国際)

が11番(1N)にてホール・イン・ワンを記録、大会に華をそえてくれた。

競技は何のトラブルもなく、順調に終わり、15時より表彰式が行われた。そして、長野地区恒例の各チームのキャプテンによる挨拶があり、大変和やかな雰囲気のうちに、決勝進出代表チームの健闘を祈り、パーティの幕を閉じた。尚、藤原委員長を始めとする役員諸氏、そして参加各倶楽部の皆様のご協力に深く感謝申し上げる次第である。

新潟地区



開催日：S61年9月11日

コース：新潟ゴルフ倶楽部

コース全長：6,432ヤード・パー72

参加チーム：15チーム・120人

決勝進出チーム：①上越国際カントリークラブ十日町
②新津カントリークラブ

新潟県は春先、コースコンディションと選手の調整不足があるために、今年度の大会に出場する地区予選会はいつも前年に開催している。

競技当日は朝から快晴に恵まれた。また当倶楽部は、昨春コーライ芝の芽出しが悪く、ペントグリーに切替えたが、そのペントも最高に仕上り、グリーンコンディション良好の中で、決勝大会への出場権をかけて熱戦が展開された。

緊張した試合中にも、お互い顔見知りの選手も多くいるのか、年々選手間の交流も出来てきびしさの中にも和やかなムードが感じられた。そして盛会の内に大会は無事終了した。

(紙面・字数の都合上、事務局にて、リライトさせていただきました。ご了承下さい。)

競技

昭和62年度 関東倶楽部対抗予戦競技成績表

地区別 順位	東京 (多摩)		埼玉 (鴻巣)		千葉 (袖ヶ崎)		神奈川 (秦野)		茨城第1 (麻生)		茨城第2 (土浦)	
1 武藏野 460	飯能 462	袖ヶ浦 455	東名厚木 447	アシア下宿 462	大利根 469							
2 青梅 461	飯山 464	千葉 462	戸塚 462	水戸グリーン 463	セントラル 473							
3 立川国際 461	嵐山 468	舞浜 463	横浜 464									
4 東京よみうり 463	鴻巣 468	習志野 465	平塚富士見 470	日立 468	富士・笠間 481							
5 多摩 467	日高 468	我孫子 470	相模原 473	龍ヶ崎 470	江戸崎 486							
6 東京五日市 468	岡部チサン 469	船橋 471	大相模 474	桜 473	茨城 492							
7 府中 468	霞ヶケ 469	総武 473	伊勢原 477	扶桑 475	筑波 494							
8 桜ヶ丘 473	桜ヶ丘 473	葉山国際 479	霞ヶ台 480	浅見 495								
9 八王子 477	東高根 473	中中山 474	葉山 474	東筑波 498								
10 東京国際 480	東高根 476	中子 475	中津川 481	常陽 490	白帆 505							
11 小金井 480	東松山 476	銚子 475	泰野 482	ダイヤグリーン 490	茨城パシフィック 506							
12 相模 481	東山 477	之台 487	小田原湯本 490	フレンドシップ 497	大洗 509							
13 GMG八王子 482	高坂 478	新千葉 488	津久井湖 492	宇戸国際 500	クリーンエイト 531							
14 赤羽 512	越川 480	成田国際 489	大秦野 493									
15 ノーザン錦ヶ原 482	廣済堂埼玉 482	八幡 490	湘南シーサイド 496									
16 入間 484	入間 485	茂木 491	レインボーワークス 496									
17 熊谷 485	秩父国際 489	木更津 494	湯河原 503									
18 泉浦 497	千葉新日本 495	一の宮 494	箱根 507									
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												
34												
35												
36												
37												
38												
個人位 A	小林正義 (東京五日市) 73	新井安寿 (武藏) 波多野康二 (東京) 田辺嘉一 (飯能) 田中明夫 (狭山) 73	山野辺邦夫 (袖ヶ浦)	田中進 (東名厚木) 大石昇 (東名厚木) 斎田齊 (平塚富士見) 猪股実 (横浜) 73	中村清 (水戸) 73	永野竜亮 (土浦) 79						
B	鷲田憲人 (青梅) 和田博 (東京五日市) 71	岡野幸男 (日高) 75 岡田光正 (嵐山) 72	松井滋 (鶴舞) 69	益田一利 (戸塚) 75	西野義雄 (水戸グリーン) 71	市川隆夫 (水戸グリーン) 73						

18ホール・ストロークプレー(参加219チーム・1752名) 5月25日、26日、6月1、2、3日 60年9月11日

栃木第1 (紫塚)		栃木第2 (宇都宮)		群馬 (関越ハイランド)		静岡 (富士小山)		長野 (長野国際)		新潟 (新潟)	
那須小川 472	宇都宮 454	太田双葉 456	東名 476	長野 484	上越国際(十日町) 475						
唐沢塚 472	鹿沼原 479	伊香保 471	浜松豊岡国際 478	諏訪湖 485	新津 476	信州丸子高原 493	フォレスト 479				
紫塚 473	塩原 479	甘楽 471	草津 474	静岡・袋井 479	三井の森蓼科 498	新潟湯 482					
都賀 475	杉郷 489	桐生 478	南高 483	鬼怒川 493	日高 503	日本海 483					
芳賀 475	日光 490	上毛高原 496	上毛高原 504	関越ハイランド 484	沼高 504	雲 489					
鹿沼 477	新宇都宮 496	松本 505	松本 505	浜松シーサイド 484	大新湯 493						
烏山城 478	皆川城 497	富士士 485	信州駒ヶ根 506	那須チサン 489	長岡 495						
木城 480	赤城国際 498	大熱海国際 487	佐久平 513	佐佐木 512	佐久平 523						
木板 481	ロイヤルオーク 500	伊香保国際 493	伊豆らやま 499	石打後楽園 512	妙高 513						
矢板 488	鶴野 501	富士チサン 495	南箱根 495	佐久平 524	上越国際(米山) 515						
皐月・鹿沼 490	広陵 504	高崎KG 499	川中島 524	伊豆らやま 525	湯田上津 519						
閑東国際 492	東宇都宮 508	ノーザン群馬 500	美野原 504	信州塩嶺高原 504							
皐月・佐野 498	藤和那須 511	上毛森林 510	太陽 499								
大平台 506	足利 512	下野 516	天城にかつ 500								
宇都宮国際 510	黒羽チサン 516	サンコー 517	富士平原 500								
千成 517	黒羽チサン 516	月風 531	静岡・浜岡 502								
			静岡・島田 504								
			愛鷹 505								
			伊東 511								
			富士小山 511								
半田純一 (烏山城)	小林恵一 (宇都宮)	松本圭石 (桐生)	阿部忠男 (浜松シーサイド)	前田信 (三井の森蓼科)	星野利勝 (上越国際) 十日町						
71	73	75	大川宗之 (函南)	76	78						
近藤一之 (那須小川)	前場敏信 (杉ノ郷)	田島準一 (美野原)	木野林 (藤枝)	山口秀治 (長野)	西村治男 (上越国際) 十日町						
73	73	72	石堂昭亜 (静岡・袋井)	74	74						
			成田朋正 (浜松豊岡国際)								

ゴルフ Q&A

回答：河西幹一・日本ゴルフ協会ルール委員

Q-1 アンダーハンディ競技の、ハンディキップの記入についておたづねいたします。次のケースでは競技委員会としていかなる処置、裁定を下すべきでしょうか。

- ①無記入の場合
- ②過少申告の場合
- ③過大申告の場合

また、記入はプレイヤー自身に行なわせるべきでしょうか。あるいは、あらかじめ競技委員会で記入して、スタート前に手渡すべきでしょうか。

A-1 ストローク・プレーでは、委員会は日付と、競技者の氏名を記入したスコア・カードを各競技者に発給しなければならない。しかし競技者のハンディキップの記入についてはふれていない。即ち、記入して発給してもよいし、また無記入で発給してもよしとしてあるが、R6-2のbで、競技者は委員会にスコア・カードを提出するとき、委員会、競技者何れか記入したかは別として

- ①の場合は失格
- ②の場合はそのまま処理
- ③の場合は失格

となる。

Q-2 ティショットを打って球の飛んだ所へ行ってみたら深いラフであった。3分程球を捜したが見つからないのでプレイヤーが球の紛失を宣言して、別の球をプレーしようとティ・グラウンドに戻った。そして打ち直そうとティ・アップしたところ、初めの球が見つかった。5分間以内に発見されたので、初めの球の所に戻り、2打目を打とうとしたが同伴競技者から、球の紛失を宣言して打ち直しに戻ったので正球にならないのではとクレームがついた。この場合、どのように裁定すべきか。

A-2 プレイヤーは、自分から紛失を宣言して球を紛失することは出来ない。(定義第24「紛失球」参照) 質問のケースの場合、球を捜し始めて5分間以内に発見されたので、初めの球がまだイン・プレーの球である。(定義第6「イン・プレーの球」参照) ティ・アップした球をプレイヤーがストロー

クしなければ、その球はイン・プレーではない。

Q-3 球をちょっと捜しただけで第2打をプレーした地点に戻り、規則第27条第1項に基づいて別の球をドロップし、打とうとしたら、初めの球が見つかった。5分間の捜索時間内であったので、プレイヤーは、ドロップした球を放棄して初めの球をプレーしようとしたが、できるか。

A-3 できない。ドロップした球がイン・プレーとなり(規則第20条第4項) 初めの球は紛失球となる。

Q-4 プレイヤーのティ・ショットが深いラフと測溝のある区域内に打ち込まれた。5分間捜したが見つからなかったので、ティ・グラウンドに戻つて別の球を打とうとしたところ、側溝内に球が見つかったと連絡を受けた。しかし、5分以上経過しているなと思ったので別の球を打って、初めの球のある所に行きボールを確認するとまさしくプレイヤーのボールであった。マーカーに、打直し前に発見されたのだから、このボールも打ってラウンド終了後競技委員に報告し裁定してもらうべきだと云われ、プレイヤーも处置に自信がなかったので、マーカーの了解をとり両方の球をプレーしてホールアウト、ラウンド終了後委員会に報告した。裁定は別の球を打った場合、初めの球は紛失球となり、後の球がイン・プレーの球となると裁定された。ここで問題はプレイヤーが別の球を規則第27条第1項に基づいてプレーしたのでその球がイン・プレーの球であり、初めの球は紛失球で、そのイン・プレーでない球をストロークしたということで過失をおかしたことになりませんでしょうか。

A-4 R3-3ストロークプレーに限り、競技者は1ホールのプレー中に、自己の権利またはとるべき処置について、疑念をもった場合、罰なしに第2の球をプレーすることができる、としてある。競技者が真実その処置について疑念をもってR3-3のプレーをしたとして、初めの球は、ティから別の球をプレーした(R27-1) 時点で紛失球となる。

ゴルフ Q&A

紛失球をプレーすれば、誤球のプレーとなるが、R3-3のプレーの場合は、委員が裁定したティから打ち直した球をインプレーの球として、そのスコアを採用したので誤球のプレーの罰は課せられない。

Q-5 ウォーター・ハザードに球が入ったかもしれないというだけでは、プレイヤーは暫定球をプレーできない、というのは正しいでしょうか。

A-5 正しくない。ウォーター・ハザードに球が入ったかもしれないという場合でも、球がウォーター・ハザード外で紛失のおそれのあるとき、またはアウト・バウンズのおそれのあるときは、プレイヤーは暫定球をプレーすることができる。但しこのような場合、初めの球がウォーター・ハザード内で見つかったときは、その暫定球は放棄しなければならない。(規則第27条第2項c参照)

Q-6 プレイヤーのティ・ショットは、ウォーター・ハザードに入った可能性はあったが、ウォーター・ハザード外で紛失したり、アウト・バウンズになるということは全く考えられない状態であった。ところが、プレイヤーは、球がウォーター・ハザードに入ったかもしれない暫定球を打っておくと告げて、別の球を出してプレーした。規則第27条第2項aはこのような状況下での暫定球のプレーを禁止しているように思われるが、この場合、どのように裁定すべきでしょうか。

A-6 定義第34「暫定球」によれば、「暫定球とは、球がウォーター・ハザード外で紛失のおそれ(または、アウト・バウンズのおそれ)のあるとき、第27条第2項に基づいてプレーする球をいう」と規定されており、質問のケースでは、プレイヤーはそのような意味での暫定球をプレーしていない。従って、ティグラウンドからの2回目の球が暫定球でない以上、その球はイン・プレーとなる。(裁定27-2 a/2)

Q-7 プレイヤーは、初めの球の捜索に5分間、暫定球に更に5分間を認められるのか、それとも合計して5分間なのでしょうか。

A-7 両球がほぼ同じ区域にある場合は、実際問題として両球を同時に捜索することになるので、捜索のために許される時間は合計して5分間である。そうでない場合は、プレイヤーは各球について5分間づつ捜索することが許される。

Q-8 木の高い所にひっかかっている球を、プレイヤーは、自分の球であると確認できたが、その球を回収することは出来なかった。この場合、その球は紛失球となり、プレイヤーは規則第27条第1項に基いて処置しなければならないのでしょうか。

A-8 その必要はない。その球が自分の球であると確認できたので、紛失球とはならない。(定義第24「紛失球」を参照のこと。) 従って、プレイヤーは、アンプレヤブル条項(規則第28条)に基づいて処置することが出来る。

Q-9 グリーンエッヂからプレイヤーがストロークしたところトップして、ホールを越えて、遠いバンカーに入ってしまった。プレイヤーはバンカーが苦手で一回や二回で脱出することが出来ないと思い、その球をアンプレヤブルと宣言して、規則第28条(a)に基いてその球を最後にプレーした(または動かした)箇所にできるだけ近い所へドロップして、プレーすることができるでしょうか。

A-9 最後にプレーした箇所に、できるだけ近く、かつホールに近い所にドロップすることができる。

訂正 前号のQ&A「ティ・ショットを空振りしたプレイヤーが、ティを地面により深く押し込んで次のショットをした。この場合、罰はあるか。」の回答を「一打の罰」としましたが、今年度4月1日よりR&Aの裁定がいくつか変更され、このケースは、2打罰となりました。訂正いたします。

実施規定

昭和62年度(第38回) 関東オープンゴルフ選手権競技 実施規定

主催 関東ゴルフ連盟 後援 日本放送協会(NHK) 協賛 総武カントリークラブ・森日本ダンロップ 特別協賛 キリンビール

1. 開催日 昭和62年9月3日(木)、4日(金)、5日(土)、6日(日)

2. 開催場所 総武カントリークラブ(総武コース)
千葉県印旛郡印西町草深302
TEL 0476-46-7111

3. 競技方法 (1)72ホール・ストローク・プレー
9月3日(木) 第1ラウンド
18ホール・ストローク・プレー
9月4日(金) 第2ラウンド
18ホール・ストローク・プレー
(2)36ホールを終り、上位60位まで(アマチュアを含む)のものが、後半36ホールに進む。

但し、アマチュアのみの成績第3位までのものは60位以外であっても後半36ホールの出場を認める。
9月5日(土) 第3ラウンド
18ホール・ストローク・プレー
9月6日(日) 第4ラウンド
18ホール・ストローク・プレー
(3)72ホールを終り、プロ、アマともに第1位にタイ・スコアを生じたときは、即日委員の指定するホールにおいてサドン・デスマス方式によりプレー・オフを行い、第1位を決める。

(テレビ放送) 第3日、第4日 NHK実況放送

4. 参加資格 アマチュア:
関東アマチュアゴルフ選手権競技成績40位まで
前年度世界アマチュア選手権日本代表選手(関東在住者)
プロフェッショナル:
関東オープンゴルフ選手権歴代チャンピオン
関東オープンゴルフ選手権前年度15位まで
関東プロゴルフ協会選考85名
KGAG特別承認者

5. 賞品 優勝
関東オープン・チャンピオン杯 NHK杯
アマチュア
ベスト・アマチュア KGA賞 NHK杯
第2位、第3位 KGA賞
予選入賞賞 KGA賞

6. プロ賞金 総額30,000,000円
(この順位はアマチュアを除く)

順位	賞金	順位	賞金
優勝	6,000,000円	32位	260,000円
2位	3,000,000	33位	250,000
3位	1,800,000	34位	240,000
4位	1,200,000	35位	230,000
5位	1,000,000	36位	220,000
6位	900,000	37位	210,000
7位	800,000	38位	210,000
8位	750,000	39位	200,000
9位	700,000	40位	200,000
10位	650,000	41位	190,000
11位	600,000	42位	190,000
12位	570,000	43位	180,000
13位	540,000	44位	180,000
14位	510,000	45位	170,000
15位	48,0000	46位	170,000
16位	450,000	47位	160,000
17位	430,000	48位	160,000
18位	410,000	49位	150,000
19位	390,000	50位	150,000
20位	380,000	51位	140,000
21位	370,000	52位	140,000
22位	360,000	53位	130,000
23位	350,000	54位	130,000
24位	340,000	55位	120,000
25位	330,000	56位	120,000
26位	320,000	57位	110,000
27位	310,000	58位	110,000
28位	300,000	59位	100,000
29位	290,000	60位	100,000
30位	280,000	以下予選	100,000
31位	270,000	通過者	
		合計	30,000,000円

7. 参加申込方法 競技参加料を添え加盟俱楽部または所属団体を通じ、締切期日までにKGAに申し込むこと。

8. 競技参加料 KGA加盟俱楽部選手20,000円 KGA加盟俱楽部以外の選手25,000円但し、締切以後の参加取消しの場合は参加料を返金しない。

9. 申込締切日 昭和62年7月27日(月) 17時必着(参加申込書必着)
締切後は事由の如何を問わず受け付けない。

電話・ファックス等の受け付けは一切行なわない。

10. 指定練習日 昭和62年8月31日(日)、9月1日(火)、2日(水)
但し、9月2日の練習ラウンドは正午をもってスタートを締める。

昭和62年度 関東シニアゴルフ選手権競技 実施規定

◎予選
期日 昭和62年9月7日(木) 第1ブロック
昭和62年9月8日(金) 第2ブロック

開催場所 第1ブロック
成田国際カントリー倶楽部

香取郡下総町猿山向1261-1

TEL 0476-96-2231

予約電話 03-572-8657(東京事務所)

第2ブロック

青梅ゴルフ倶楽部(東西コース)

青梅市根ヶ原一-490

TEL 0428-22-0261

1. 競技規則 日本ゴルフ協会競技規則、および本競技特別規則を適用する。

2. 競技の条件 18ホール・ストローク・プレーを行ない、各ブロック上位60位までが、9月29日、30日の2日間嵐山カントリークラブで開催する決勝競技出場資格を得る。但し、各ブロック予選通過者は参加者の数によって変更することがある。

3. 参加資格 (1)加盟倶楽部会員で競技当日満60歳以上でJGAハンディキャップ16まで。但し未実施倶楽部は下記計算により14まで。

(2)KGA特別承認者

4. 賞 メダリスト賞
5. 参加料 予選、決勝を通じ20,000円
参加料は倶楽部で取りまとめ

「三和銀行東京営業部関東ゴルフ連盟普通預金口座No.380」に振込みのこと。
(注)締切以後の参加取消しの場合は、参加料は返金しない。

6. 申込み方法 参加希望者は所属倶楽部に参加料を添えて申込むこと。

7. 申込締切日 昭和62年8月10日(月) 17時必着
但し、JGAハンディキャップ未実施倶楽部は8月5日(火) 17時必着。

締切以後は理由の如何を問わず受け付けない。
電話・ファックス等での申込みは一切受け付けない。

8. 指定練習日 第1ブロック 9月2日(木)、9月3日(金)
予約受付03-572-8657(東京事務所)

第2ブロック 9月2日(木)、9月3日(金)
予約受付0428-22-0261(青梅ゴルフ倶楽部)

指定練習日は各ブロック2回指定日を定め、うちいずれか希望日1回は会員並み扱い、1回は一般ビジター扱いとし希望日を開催倶楽部に届け出のこと。

ビジター扱い日利用の場合、倶楽部側にスタートを予約することが必要だが、出場選手は会員の紹介を必要としない。
予選の希望ブロックは原則として認めない。

但し、所属倶楽部に近いブロックに参加できるよう出来る限り考慮する。

◎決勝
期日 昭和62年9月29日(火)、30日(水)

開催場所 嵐山カントリークラブ
比企郡嵐山町鎌形1146
TEL 0493-62-2355

1. 競技規則 日本ゴルフ協会ゴルフ規則、および本競技特別規則を適用する。

2. プレーの条件 9月29日(火) 第1ラウンド
18ホール・ストローク・プレー
30日(水) 第2ラウンド

18ホール・ストローク・プレー
36ホールを終わり、第1位がタイの場合は、委員の指定するホールに於て、サドン・デスマス方式のプレー・オフにより第1位を決定する。

3. タイの決定 (1)本年度関東シニア選手権予選通過者(各ブロック60位)
(2)前年度関東シニア10位までの者

優勝者 KGA賞(レプリカ)

2位 菊皿皿
3位 "
4位 "
5位 "

(全員に予選通過記念品)

実施規定

6. 参加料 20,000円(但し、決勝シード選手のみ)
(注)締切以後の参加取消しの場合は参加料を返金しない。

7. 申込み方法 参加資格(2)の核当者は所属俱楽部に参加料を添えて申込むこと(子連通過者は決勝に改めて申込みを必要としない)。申し込みを受けた俱楽部は所定の申込書に参加料を添えて連盟に申し込むこと。

参加料は
「三和銀行東京営業部関東ゴルフ連盟普通預金口座No.380」へ振込みのこと。

8. 申込締切日 昭和62年9月9日(火) 17時必着
締切以後は理由の如何を問わず受け付けない。

9. 指定練習日 9月25日(金)、28日(月)
1人2日間メンバー並み扱いとして予めスタート時間を予約すること。

(記) JGAハンディキャップを持っていない方は、所定の申請書に1年内のベストカード10枚を提出して出場資格を取得して下さい。

(備考) 昭和62年度日本シニア選手権(10/14、15相模原ゴルフ俱楽部・西コース)の参加資格は本決勝競技の上位45位まで。

昭和62年度 関東グランド・シニアゴルフ選手権競技 実施規定

期日 昭和62年10月19日(月)
開催場所 相模カンツリー倶楽部

1. 競技規則 日本ゴルフ協会ゴルフ規則、および本競技特別規則を適用する。

2. プレーの条件 18ホール・ストローク・プレー

3. タイの決定 18ホールを終り、第1位がタイの場合即日サン・デスのプレー・オフを行ない、第1位を決定する。

4. 参加資格 (1)加盟俱楽部会員で数え年70歳以上で、JGAハンディキャップ22まで。
但し、未実施倶楽部は下記計算により20まで。

(注)JGAハンディキャップをもっていない方は、所定の申請書に1年内のベストカード10枚を提出して出場資格を取得してください。

(2)KGA特別承認者

優勝者 KGA杯(レプリカ)

2位 菊皿

3位 "

4位 "

5位 "

(全員に参加記念品)

6. 参加料 15,000円
(注)締切以後の参加取消しの場合は参加料を返金しない。

理事会・委員会

加盟倶楽部殿 昭和60年6月8日
関東ゴルフ連盟

理事長 細川護貞

62年度第1回常務理事会及び決議事項を下記の通りお知らせいたします。

62年度第1回常務理事会議事録

日 時 昭和62年6月8日(月)正午

場 所 JGA会議室

出席者 武内、中井副理事長、柏山、藤原、古茶、古賀、小山、松野、尾閑、斎藤、佐藤 各常務理事

細川理事長、体調不調のため欠席。武内副理事長、議長を務め、12時25分開会を宣言し、順次議題審議を行なった。

決議事項

1. 新規加盟申請倶楽部承認の件

入会審査委員会(62年6月8日 午前11時30分JGA会議室にて開催)より上程された、次記5倶楽部の入会を慎重審議の結果、これを承認した。

①国際空港ゴルフ倶楽部(千葉)

②ユーハイゴルフクラブ(栃木)

③ザ・ナショナルカントリー倶楽部(静岡)

④鶴ヶ島カントリークラブ(埼玉)

⑤グランドスラムカントリークラブ(茨城)

以上5倶楽部加盟によって、加盟倶楽部総数は361となつた。

2. 後援競技承認の件

次記4競技の後援を承認した。

①'87NGAオープンゴルフトーナメント

主 催 新潟県ゴルフ場連盟

期 日 予選 62年6月2日(火)

62年6月9日(火)

決勝 62年7月7日(火)、8日(水)

会 場 予選 紫雲ゴルフ倶楽部

妙高カントリークラブ

決勝 フォレストゴルフクラブ

②第16回栃木県オープンゴルフ選手権大会

主 催 下野新聞社

期 日 62年7月14日(火)、15日(水)

会 場 塩原カントリークラブ

③第16回静岡県アマチュアゴルフ選手権大会

主 催 SBS静岡放送、静岡新聞社

期 日 予選 62年9月1日(火)

62年9月16日(水)

62年10月5日(月)

決勝 62年10月20日(火)

会 場 予選 静岡カントリー袋井コース

伊豆大仁カントリークラブ

リバーエンジニアリングクラブ

決勝 静岡カントリー浜岡コース

④第6回日刊アマ・関東ダブルスゴルフ選手権

主 催 日刊スポーツ事業株式会社

期 日 10月~11月

会 場 予選 5会場

決勝 1会場

3. 各分科委員会報告

事務局長より、机上配布の委員会議事録にもとづき、これまで開催された各分科委員会の報告がなされた。

なお、武内コース選定委員長より「63年度連盟主催競技開催候補コース」の説明、要請があり、6月末日まで各県常務理事、これを折衝し、決定することを確認した。※①

4. 競技報告

事務局長より、本常務理事会まで開催された連盟主催競技の報告がなされた。※②

以上をもって、上程された議事の審議を終了、13時30分 議長、閉会を宣した。

※①分科委員会報告を参照のこと

※②各競技成績、観戦記を参照のこと

62年度第2回ハンディキャップ委員会議事録

日 時 昭和62年5月14日(木)正午

場 所 JGA会議室

出席者 福田委員長、古茶、渡邊副委員長、小林、桑原、吉沢、原田、町田、三宅、宮元、寺田、鶴島各委員

——討議及び決議事項——

1. 今年度の活動方針

福田委員長より次記の方針が示され、活発な意見交換がなされた。昨年度実施したJGAハ

理事会・委員会

実施規定

ディに関するアンケートの結果を見ると、ある程度前向きの姿勢はうかがえる。実施率だけを見れば遠からず90%をこえるだろう。しかし具体的な実施内容については未だ不十分である。要は各俱楽部のハンディキャップ委員の取り組み方一つである。そのような観点から、本年は各県毎に、ハンディキャップ委員長会議を開催し、研修研究を行ないたい。アマチュアゴルフにとって、ハンディキャップは、ルール、マナー、エチケットと同様大事なことなので、根気よくその普及、促進を行ないたい。

2. 事務局の報告及び提案

裾野カントリー倶楽部及び扶桑カントリー倶楽部より申請の出ているコンピューター、パソコンを使用してのハンディキャップ査定については、基本的にこれを承認する。但し、証明書の発行については、KGA経由とすることを確認した。

62年度第2回コース・レート委員会

日 時 62年5月20日(水) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 尾関委員長、新井副委員長、前川、内藤、中野、吉田 各委員

—決議事項—

1. グランドスラムカントリークラブ以下4倶楽部のコース・レート査定

上記倶楽部のコース・レートについて、机上配布の資料をもとに次記のように決定した。

(1)グランドスラムカントリークラブ

(イ) Aグリーン

東	バック・ティ	36.6
	レギュラー・ティ	35.4
西	バック・ティ	36.3
	レギュラー・ティ	35.0
北	バック・ティ	35.9
	レギュラー・ティ	34.9
東・西	バック・ティ	72.9
	レギュラー・ティ	70.3
東・北	バック・ティ	72.5
	レギュラー・ティ	70.3
西・北	バック・ティ	72.2

	レギュラー・ティ	70.0
(ロ) Bグリーン		
東	バック・ティ	36.1
	レギュラー・ティ	34.9
西	バック・ティ	36.2
	レギュラー・ティ	34.9
北	バック・ティ	35.4
	レギュラー・ティ	34.4
東・西	バック・ティ	72.3
	レギュラー・ティ	69.9
東・北	バック・ティ	71.5
	レギュラー・ティ	69.5
西・北	バック・ティ	71.6
	レギュラー・ティ	69.5
(2) 静岡よみうりカントリークラブ		
(イ) 高麗グリーン		
バック・ティ	69.6	
	レギュラー・ティ	68.0
(ロ) ベントグリーン		
バック・ティ	70.8	
	レギュラー・ティ	69.1
(3) 武藏松山カントリークラブ		
(イ) 高麗グリーン		
バック・ティ	71.8	
	レギュラー・ティ	68.8
(ロ) ベントグリーン		
バック・ティ	72.5	
	レギュラー・ティ	69.4
(4) ユーアイゴルフクラブ		
(イ) 早月	バック・ティ	36.2
	レギュラー・ティ	35.0
(ロ) 桜	バック・ティ	36.1
	レギュラー・ティ	35.3
(ハ) 椿	バック・ティ	36.2
	レギュラー・ティ	35.0
早月・桜	バック・ティ	72.3
	レギュラー・ティ	70.3
早月・椿	バック・ティ	72.4
	レギュラー・ティ	70.0
桜・椿	バック・ティ	72.3
	レギュラー・ティ	70.3

(5) 真名子カントリー倶楽部

(イ) 高麗グリーン

さざんか

バック・ティ	34.2
レギュラー・ティ	33.0
さつき	34.7
レギュラー・ティ	33.5
さくら	34.7
レギュラー・ティ	33.1

(ロ) ベントグリーン

さざんか

バック・ティ	34.8
レギュラー・ティ	33.6
さつき	35.4
レギュラー・ティ	34.2
さくら	35.4
レギュラー・ティ	33.9

(ハ) 高麗グリーン

さざんか・さつき

バック・ティ	69.2
レギュラー・ティ	67.2
さざんか・さくら	
バック・ティ	69.2
レギュラー・ティ	66.9
さつき・さくら	
バック・ティ	69.6
レギュラー・ティ	67.3

(ニ) ベントグリーン

さざんか・さつき

バック・ティ	70.2
レギュラー・ティ	68.3
さざんか・さくら	
バック・ティ	70.2
レギュラー・ティ	68.0
さつき・さくら	
バック・ティ	70.8
レギュラー・ティ	68.5

以 上

場 所 JGA会議室

出席者 松野委員長、山崎、川島両副委員長、嶋田委員

—討議及び決議事項—

1. 62年6月例出場資格者確認の件

男子 421名 女子 191名

上記を確認した。

4月度月例競技(4月2日 千葉カントリークラブ)について川島副委員長より下記の報告がなされた。

開催クラブの協力により、進行はスムーズであった。コースコンディションもよく、選手も技倆をいかなく発揮できた。しかし、欠席者がめだち、また2名の無断欠席者がが出たことは、遺憾であった。

当月のエントリー、出場者、欠場者は以下の通り。エントリー 159名(男子111、女子48)

出場者 154名

欠場者 9名(男子9、女子0)

無断欠席者 2名

上記2名については、出場停止通知書を委員長名にて所属倶楽部理事長に送付した。

遅 刻 1名

2. 6月のテーマ

プレーの迅速化(特にグリーン上、歩行)
前のティ・グラウンドを横切らない

3. その他

イ、63年度競技開催倶楽部については8月中に検討、決定する。

「昭和62年度第13回ジュニアゴルフ教室」報告

日 時 昭和62年 4月1日(水)～3日(金)

会 場 烏山城カントリークラブ(栃木県)

参加者 99名 小学生10名、女子1名

中学生38名、女子3名

高校生45名、女子2名

講師及び指導員

ジュニア委員、日本プロゴルフ協会より5名、関東学生ゴルフ連盟より10名(内女子2名)

総 括

実技だけでなく、ゴルファーとしてのルール・

62年度第2回月例競技委員会議事録

日 時 昭和62年5月13日(水) 正午

理事会・委員会

マナー・エチケット等にも十分な研修を行い、効果のあがった教室となつた。
尚、夏季ジュニアゴルフ教室のスケジュールは以下のとおり
8月17日(月) 桜ヶ丘カントリークラブ(中上級者)
8月20日(木) 東京ゴルフ俱楽部(中上級者)
8月28日(金) ノーザンカントリークラブ錦ヶ原ゴルフ場(初心者)

62年度第1回税対策委員会議事録
日 時 昭和62年5月21日(木) 午後2時~4時30分
場 所 JGA会議室
出席者 松浦委員長、小宮山副委員長、北村、佐藤(和)、林、森井、佐久目、萩原、平林、小松、狐塚、宮川、水野、森、大河原、坂本、佐藤(辰) 各委員

討論事項

松浦委員長の挨拶、各委員自己紹介の後、机上配布の資料をもとに討議に入った。

今年度の方針

松浦委員長より下記の方針が示された。
昨年度より我々をとりまく状況は若干変化した。特に売上税が御存知のようなことになり、今後、どの方向に向かうのか不明確である。その意味でJGA・KGAともいへん微妙で難しい時期にかかっている。昨年度にひきつづき、次記の三點を上記の状況をふまえて関係機関に陳情、運動をしていきたい。

① 娯楽施設利用税

定率課税を陳情したい。また、名称については、ゴルフはスポーツであることを強く主張し、改称をアピールする。しかし、名称変更は税法を変えることにつながる。このことはJGAの体協復帰問題とも絡んでくるので、今後の成り行きを注目していきたい。

② 固定資産税

未だ関係官庁、政府、自民税調等では話しが出でていないようだが、昨年同様その改善方を働きかけてゆく。

③ 売上税(税制一般)

売上税は、ご承知のようになっているが、税制一般、ことに、これに変わる財源となると新型の税が考えられる。資料・情報を収集し、検討・研究等を地道に進めていきたい。
以上の方針をもとに、出席委員はそれぞれの地区、県の状況、問題点を報告、そして活発な情報、意見交換を行なつた。

62年度第2回グリーン委員会議事録

日 時 昭和62年4月21日(火) 16時
場 所 日本出版クラブ会館
出席者 古賀委員長、佐久目、浅沼、角田、萩原、平林、平本、勝又、大河原、坂本、鶴島、渡辺、山崎 各委員、江原 顧問、大久保、柳 参与
——討論及び決議事項——

1. 第15回KGAグリーン研究講習会報告

古賀委員長より次記の総括報告がなされた。
ゴルフシーズン最中なので出席人数が心配されたが、65クラブ85名の出席があり、盛会であった。

第1テーマの「労災問題」は未だ関心がうすく、今後グリーン委員会だけでなく、連盟全体として意識を高めていく必要がある。

第2テーマの「芝生の歴史」は、期待した通りの内容で出席者全員、芝生に対する関心が一段と深まったことと思う。

2. 次回グリーン研究講習会のテーマについて

各委員より、次記の企画が提案された。

- ・再び松嶽虫の防除について
- ・スマチオンの薬害について
- ・植物学におけるバイオテクノロジーの最新研究レポート
- ・ベンガラスは永遠か—次代の芝草は
- ・土壤を使わない植物栽培
- ・泥から砂へ—植物にとって栄養とは何か
- ・芝草の基本的な知識と最新研究報告

—直接、芝草に役立つ話より植物学の観点から基本的に

なお、事務局より各委員にこれまでのテーマ一覧表を送り、企画立案の参考にしてもらうことにした。

月例競技成績表

[62年度3月月例]

参加：男子91名 女子63名 3月27日(金)
於：袖ヶ浦カントリー倶楽部袖ヶ浦コース

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	藤 田 遼 也	岡部チサン	34	39	73
1	前 場 敏 信	杉 ノ 帆	36	37	73
1	佐 藤 英 明	新 千 葉	39	34	73
4	桜 井 聖 士	真 名	37	37	74
4	根 本 太 澄	水 戸	36	38	74
4	大 友 富 雄	塩 原	38	36	74

コース・レート 71.3
(注) 2月例プレー・オフは前場敏信、佐藤英明氏欠席のため藤田遼也氏の優勝となりました。

[62年度4月月例]

参加：男子97名 女子44名 4月16日本日
於：千葉カントリー倶楽部梅郷コース

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	岡 部 太 郎	專 修 大	37	34	71
1	打 越 守	水 戸	36	35	71
1	白 井 正 衛	新 千 葉	35	36	71
4	志 村 幹 夫	大 洗	34	38	72
4	和 田 博	東京五日市	38	34	72

コース・レート 70.7

(注) 3月男子プレー・オフは前場敏信、佐藤英明氏欠席のため藤田遼也氏の優勝となりました。

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	原 田 香 里	鳥 山 城	39	37	76
2	渡 辺 恵 子	高 根	35	43	78
3	市 川 慶 子	江 戸 嶋	40	39	79
3	喜 多 麻 子	鳥 山 城	39	40	79
3	三 木 恵 美 子	富 士	40	39	79

コース・レート 69.0

(注) 2月例プレー・オフの、加藤勝栄、三木恵美子氏は、三木恵美子氏が優勝しました。

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	市 川 慶 子	江 戸 嶋	38	37	75
2	原 田 香 里	鳥 山 城	41	36	77
2	加 藤 勝 栄	平 塚 富 士 見	39	38	77

コース・レート 69.6

事務局からのお知らせ

先般おとどけいたしました、「コースレート一覧表」「加盟倶楽部一覧表」「役員委員名簿」の一部に誤りがありました。
お手数かけますが、ご訂正下さいようお願いいたします。

「コースレート一覧表」

越生ゴルフクラブ(14頁)

Korai	Back	71.2(誤)	71.5(正)
	Reg	69.8(誤)	69.1(正)
Bent	Back	72.0(誤)	70.0(正)
	Reg	70.5(誤)	68.0(正)

八王子カントリークラブ(21頁)

Korai	Back	6788Y _{(6207)m} (誤)	6795Y _{(6213)m} (正)
	Reg	7,548Y _{(6,902)m} (誤)	6,465SY _{(5,912)m} (正)

「加盟倶楽部一覧表」

大厚木カントリー倶楽部(誤)

スポーツ振興大厚木カントリー倶楽部(正)

「役員・委員名簿」

松野京三(5頁)

八洲商事(誤)

八洲商事(正)

大出正義(14頁)

茅ヶ崎東海岸(誤)

茅ヶ崎市東海岸(正)

千葉市千城台(誤)

千葉市千城台(正)

事務局からのお知らせ

理事長の変更

太田双葉カントリークラブ	(新)森 保男
	(旧)空席
南富士カントリークラブ	(新)杉山 積
	(旧)井上 達雄
浜松シーサイドゴルフクラブ	(新)福田 国三
	(旧)福田 富市
程ヶ谷カントリー倶楽部	(新)森村大華生
	(旧)川崎大次郎
秩父国際カントリークラブ	(新)大本 百穂
	(旧)吉田 正則
平塚富士見カントリークラブ	(新)太田 和夫
	(旧)浅川 正治

新規加盟倶楽部理事長及び倶楽部代表者

国際空港ゴルフ倶楽部
理事長 川村 皓章
倶楽部代表者 川村 皓章
菅 邦欣
ユーアイゴルフクラブ
理事長 井上 博司
倶楽部代表者 井上 博司
川部 君平
ザナショナルカントリー倶楽部
理事長 櫻井 義晃
倶楽部代表者 櫻井 義晃
平本 一方

倶楽部代表者の変更

湯ヶ原カンツリー倶楽部	(新)鈴木 太郎
	(旧)岡田 秀雄
大浅間ゴルフクラブ	(新)山田 寛
	(旧)松崎 栄次
ニューセントアンドリュース ゴルフクラブジャパン	(新)高原 宏
	(旧)山口 澄
南富士カントリークラブ	(新)杉山 積
	(旧)井上 達雄
総成カントリー倶楽部	(新)星野 英男
	(旧)中井 楠夫

理事長 石原 俊
倶楽部代表者 石原 俊
大澤 武次
グランドスラムカントリークラブ
理事長 佐々木陽信

速報

昭和62年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績

順位	倶楽部名	得点	順位	倶楽部名	得点	順位	倶楽部名	得点
1位	千葉カントリークラブ	451	14位	袖ヶ浦カンツリー倶楽部	464	27位	鶴舞カントリー倶楽部	474
2位	東名厚木カントリー倶楽部	457	15位	東名カントリークラブ	465	28位	新津カントリークラブ	475
3位	大利根カントリークラブ	457	16位	太田双葉カントリークラブ	465	29位	鹿沼カントリー倶楽部	480
4位	アジア下館カントリー倶楽部	458	17位	習志野カントリークラブ	468	30位	調布湖カントリークラブ	482
5位	横浜カントリークラブ	458	18位	飯能ゴルフクラブ	468	31位	那須小川ゴルフクラブ	485
6位	武藏カントリークラブ	461	19位	紫塚ゴルフ倶楽部	469	32位	伊香保カントリークラブ	485
7位	我孫子ゴルフ倶楽部	461	20位	唐沢ゴルフ倶楽部	471	33位	上越国際カントリークラブ+日町コース	489
8位	青梅ゴルフ倶楽部	461	21位	武藏野ゴルフクラブ	472	〔Aクラスメダリスト〕		
9位	宇都宮カンツリークラブ	461	22位	取手ゴルフ倶楽部	472	今田幸雄 浜松豊岡国際CC	72(35・37)	
10位	セントラルゴルフクラブ	463	23位	嵐山カントリークラブ	472	田辺嘉一 飯能GC	72(35・37)	
11位	戸塚カントリー倶楽部	463	24位	水戸グリーンカントリー倶楽部	472	〔Bクラスメダリスト〕		
12位	富士宮ゴルフクラブ	463	25位	長野カントリークラブ	473	加藤一彦 千葉CC	71(36・35)	
13位	浜松豊岡国際カントリークラブ	464	26位	塙原カントリークラブ	473			

*詳細は次号の観戦記、成績一覧表をごらん下さい。

昭和62年7月1日発行 KGAニュースNo.19

発行所 関東ゴルフ連盟 東京都千代田区丸の内1-1-1 TEL.(03)215-0511 発行人 細川 譲 製本 広報委員会